WASGY 110 ... May 1897 no. 442

明治三十年五月二十五日

女學雜誌

第四百四十二號

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第四百四十二號目次

社説
現在の通弊

隨感
青花開落

女學
町村内の鏡鑑
方今女學界の一戒心事（卑劣なる女子教育者）　曲浦子
小學女教員の需要◎女子高等師範學校保姆練習科◎大阪市の慈善事業其一◎女子の就學◎大奥の服裝

評論
本佐錄を讀む　落花渋人

教育
世上巨惡の責任
教育界時評（教育上の飢饉）◎万國學生大會◎日本主義◎教育界の階級◎教育界の紛亂事件◎教員の反抗◎野心家◎諸學校教員の狀態）　、、生

雜錄
寫眞（花影子）◎こがれの指輪（暁鳴子）◎詰の補十數件（長汀子）

時文
◎社會百方面◎藤田東湖◎馬場辰猪◎新著月刊第二◎新小說第二年第七卷◎日の出島◎女界文壇雜俎

片々◎時報

社告

●本誌は每月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

●十日發行の分は稍や簡易實際を專らにし、第一、家庭の整理改善に益ある事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學敎界に對する吾黨多年の主義を發表するもの。

●單に十日發行の分のみを購求せんと所望せらるゝものあらは其望に應ずべし

女學雜誌定價表

前金	一冊　價　金拾錢 一年前金　金弐圓（無郵税）
廣告料	一行一回（廿七字詰）前金十錢 同三回以上　一割引 同六回以上　二割引 但し不道德なる廣告は謝絶す。慈善の廣告は社說ノ上無代價にて引受く
送金	爲替は東京麹町郵便局に宛て小爲替にすべし○郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割増を添ゆべし
注文	注文は東京麹町區下六番町六番地女學雜誌社あてに申越さるべし

第四百四十一號目次

◎**口繪**
ヘレン、ケレル孃とサリバン女史

◎**社説**
盲唖才女ケレン、ケレル孃と其訓育者アンナ、サリヴアン　青柳猛

◎**家庭**
滋養の品々
家庭養蠶の樂　新渡戸まり子
出產日取早見表　さくら

◎**文藝**
案山子庵舍諸社中詠草

◎**雜錄**
印度女傑ラマバイ女史大飢饉遭難の實歷談◎古事斷片◎春日野遊（告天子○此處、彼處）大塚楠緒子

◎**隨感**
大勢の人◎官祿

◎**時文**
◎脚本俠客春雨傘◎花柳お多福◎舊幕府

片々◎時報

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

音樂

毎月一回　二十五日　發行

定價　一部　前金八錢　郵税金五厘

六部　郵税共前金五拾錢

十二部　郵税共前金壹圓

廣告料　（五號活字）　一行一回八錢　行數回數ニヨリ割引アリ

第六十八號目次（四月二十五日發行）**說林**○音樂改良論田村宣之◉韓圖美學說○加茂多閭麿○暗記傳誦的音樂、黑部峯三○**講壇**音響學（十一）上原六四郎　和聲學（十一）石原重雄

文苑唱歌師（六十五號のつゞき）楳莊學人譯○學友ゝみまかりしを悼みて、芝間隱子○淺岡、青龍○（紙鳶音樂學校課題唱歌、高塚鑒爾○同、林春子○同、橋本正作○同、神山末吉○春郊打毬音樂學校課題唱歌天谷秀○同、小林八重の・○同橋本正作○同武田とみ○偶成、牟田口喇女○春興泉館齊月○東臺懷古青龍**史傳**俗曲沿革考廣田金松**歌曲**送卒業生赴任、三輪義方作歌奥好義作曲○芳野櫻土屋重正作歌吉田恒三作曲○汐干狩撫箏

女史作歌○滿宮花渡邊岱山投山本靜野作曲**寄書**如何にして卑猥なる俗歌を撲滅し得る乎一山居士**通信**○仙臺通信菊廼舍主人**雜報**シユーベルト氏の誕生日△ウヰリアムテルの草稿△婦人音樂隊最高

俸給の寺院唱歌者△富士見學校の卒業式△小山氏面接日△戰史軍歌△音樂大演奏會△四季花車の歌曲

△能樂會△好謠會△地方巡覗△市中樂隊△救世軍△音樂教師赴任△新撰樂典大要△臺灣に於ける音樂

發行所　**共益商社書店**

東京市京橋區竹川町拾三番地

電話番號本局五百廿九番

芙蓉峰

第十三號

明治三十年四月二十日發行

芙蓉の雪●●春之福音●美男及び美女●聖書文金言（以上三論文共に山月子特得の靈筆）◎蒼海の波●●遠城謙道師の傳及び同師を訪ふ、（伊井大老の遺臣武士の片身なる）同師は東野化仙君（の寄書によりて紹介せられたり）同師（を知らむと欲する者は須らく）芙蓉峯第十三號を見よ◎シオンの月●●現今の基督教徒（は押川東北學院長の談話簡單の語無限の深意を含む）◎春野の草●●客窓漫筆（（一）神仙（二）故郷の父を思ふ（三）久里濱（四）病床の感（五）篠原正三君の訃音（六）愛の徳（七）田舍氣質（八）基督教徒の同情（九）健長、圓覺の二禪寺（一〇）半僧坊（一一）人の誠）是れ山月子の筆（靈筆）滴る所神氣發々●海外の友を懷ふ（友愛の情紙上に溢る）●詩數首（淺南生）●新躰詩（麗花）◎晴夜の露●眞青年●奈破翁の死顏に題す（地下の英雄感夫れ如何）●讀誌餘感（以上二則矢州）◎前山の霞●●二宮尊徳の幼時（堪雪梅花深經霜紅葉舟）◎百花の園●●一語万金（唯夫れ一語なり然れども之れを己れの命となさば豈啻に万金のみならんや）◎四邊の景◎茅屋の庭（我勞働會員活々潑々之れが動靜を知らんと欲さば）此欄を見よ

毎月一回發行

定價	一部金四錢	郵税五厘
	半年分前金二十二錢	郵税三錢
	一年分前金四十錢	郵税六錢

（見本御注文の方は五厘切手九枚を送らるべし）

發行所　**芙蓉社**

仙臺市南六軒町四番地勞働會内

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本の家庭

毎月二回（一、十五日）發行◉定價一冊五錢五厘郵稅五厘◉半年分（郵稅共）七拾壹錢◉一ヶ年分（全）壹圓四拾錢◉爲替振込飯田町局

第二卷第九號　五月一日發行

口繪 花下清遊の圖　挿繪 大小十餘　社說 和樂の一方　史傳

小說 喜代子（七）上田落葉○迷の雲（二）蕉山

リンコルン白屋の家庭（續）（みどり）　教育 務に忠實なる少年（經營生）○小兒の導き方（栗島鶏助子）子守を撰むこと（一羽）　家事 胃弱の話（續）（天心生）○家庭と音樂（林和武）○鳥類の こと（心齋生）○午蒡にて菓子を製する法（山田梅子）○

雜錄 虎耳草の効能（逸我）○香茶貧民窟の一隅（鶴栖）○當世えせもの譚（星川乗槎）○雨ゆく月（神谷保朗）雜話○我等が準備（佐藤雅昇）○和歌○俳句○問答等

發行所　東京麹町區富士見町六丁目七番地　日本の家庭社

統計集誌

毎月廿五日發兌　定價金貳拾五錢

第百九十號目次（四月二十五日發兌）

大日本國勢問答　河合利安
氏統計論　相原重政
力ノ統計　岡松徑
露國形勢總覽　伊東祐穀
死亡者平均年齢　武市翁壽
十年間死亡者平均年齢　足立公忠
都部ニ於ケル出生及死亡　武市翁壽
本邦三大都ノ人口　足立公忠
全國米麥作付反別　横山雅男
牡牛牡馬頭數地方別　鈴山雅男
近十ヶ年輸出入　冽木敬治
近十ヶ年各國貿易概況　横内八郎
株式會社　高濱税闌
木費總額　篠橋二郎
一箇年平均額　呉崎亮
明治二十八年中肺病死亡者　立洲漁夫
雜記　野生

東京統計協會の定期會◉統計家懇話會◉東京統計協會入會者◉寄贈書目

發行所　東京市京橋區山城町六番地　東京統計協會

俳諧史傳

布川靜淵、小此木秀野合著

全一冊　和裝 正價金貳拾七錢　美本 郵稅金四錢

これ本邦唯一の俳諧史なり、俳諧に志すの徒、坐右必ず一本を備ふるを要す

發賣所　東京麹町區下六番町六番地　文學雜誌社

女學雜誌

第四百四拾貳號

明治三十年五月廿五日發兌

社説

現在の盡瘁

風雲際會の比ほひや、土龍も尙ほ飛躍せばやと試む。惣じて腰の据わらざる景色、笑止千万の事なり。何等の輕薄史家ぞ、出世をもて光榮とし、立身をもて丈夫の事と言做せしより此の方、青年輕瓢の輩、やゝともすれば利達昇進を期望とし、只管に顯榮を望みて靜かに修藏するの德を慕ふもの稀なり。時勢少しく轉じ、風波動搖を始むるに及べば、彼等の狂奔すると彌よ太甚し。近來の獵官運動なるもの何んぞ其の醜くきや。

官を求めて官を獲るは、仁を求めて仁を得るが如し。たとひ其志をもて淺小なりとすべきも、未だ必らずしも要求の因果を誤解せりとすべからず。但だ夫の救世有爲の事業に志あるものにして、必ずしも顯榮の地位を求めんとするに至つては、何事ぞや。吾人は、之を陋なりとするに先だちて、先づ其の無益なるとを告げんとす。何んとなれば、如の斯き志望の通行に對しては、未だ必らずしも好地位を占むるとをもて緊要事となさざる可ければ也。

惜しい哉、古來第一等の人、史傳を編むとをせず。大抵迂遠の學究、妄りに之を試み、偏狹にして徹底せざるの眼識をもて徒らに淺薄の事實を羅列す。曰く、某の事件は某の主動によりて成れり云々と。然れど當世の卓士にして此の許論を聞かば、多くは一笑に附すべき見識の見解のみなるべし。古來、達人の事を成すや、勗めて形跡を見めさず、巧みに其痕を消して敢て端睨すると能はざらしむ。豈に何んぞ一介の書生輩が、開化史的の歸納演繹を試むべき程の有形材料を遺さんや。此るに、學校普通の敎科が敎ふる所は素より此邊の筋合を示さず、一々人生を解剖して、理化學的の投藥の忽ち効を奏するかと思惟せしむ。青年子弟の之に誤まられて

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

多くは之に倣はんとするは止むとを得ざる也。

左れば君よ、少らく文字の史傳を擲ちて、實際の世間に視察し、近邊近所の出來事に思ひ合はせて、物の實相を觀ぜらるべし。地位の高きが故に高貴なる事を成し、地位の低きが故に賤劣なる事を成すと云ふものある乎。猴は冠すとも到底、猴たるとを免れず、下郎は上下を着けても人品を上ると能はず。人の事業の高低貴賤は、畢竟、其の品德と伎倆とによりて決すべきにあらずや。然らば、我が才德の上らざるを歎ずること第一の急務なれ。地位を望み、爵祿を干むるが如きは、畢竟、餘計の事ならずや。

若し錢を欲するならば、錢を要求すべし。單に地位を望むならば、地位を要求すべし。何んぞ必らずしも之を罵しるほどの價値あらんや。但だ夫れ幾分の血誠あり、多少の奉公心あり乍ら、救世の事業を爲すに、益もなき迂路を取り、錢と地位とを兼ね望みて、其の目的を達するに必要なるかの如く誤解するに至りては、寧ろ氣の毒の事と云ふべし。惟ふに是れ先輩指導の黨を得ざるに由來す、當に其の感化と刺激とを一變せしむべき也。

蓋し人心影響の感應は微妙にして、諸種の障壁を透して容易く徹するもの也。たゞ當に精神の充溢せざるを歎ずべし、才德の擧らざるを歎ずべし、慈愛赤誠の足らざるを歎ずべし、抑も此の外に何の餘暇ありてか閑問題に狂はんとするや近來年少の士、一きは動搖して靜かに學を樂しむもの少なし、是れ豈に當代の恨事ならずや。

然らば、人よ、徒らに空望にあせりて、あたら日月を消し、無益の事に勞して尊き人生を空しうする莫れ。吾が誠にして足り、吾が慈愛にして滿ち、吾が手腕にして優れなば、たとひ如何なる平凡尋常の地位にありとも、活かして以て大事業の首座となすとを得べし。故に戒しむべきは吾が『現在の盡瘁』如何んと云ふにあり。眞面目に吾が義務を盡し、公明正大に吾が責任を果して、業に鍛錬し、事に自修して、以て彌よ上達せば、人生の目的は既に過半を達したりと云ふべし。亦何をか他に求むるの必要かある。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

隨感

言花開落

近頃ろ甲州に遊びしとき、山梨日々新聞、余が談話を筆記して數日の紙上に掲出せり。今ま其の後半を左に轉載して隨感の紀念となす。

社員再び巖本善治氏を訪ふ。談は前日の文部省攻撃論より續出したるが氏は曰く、今の文部省攻撃論の如きは殆んど採るに足らざるものにて、苟くも教育上の責任を知るもの などは、斯る空論を囂々して日を消すべきものにあらず。一躰、今日の輿論として目さるゝものゝ識見の低きは歎息の至りなり。責任内閣を作るの根本は政治家が責任を知るにあり、然るに攻撃するものも亦た責任を重んぜずして責任内閣を作らんとは何事ぞや。政治は組織にあらずして運用の妙にあり、人情の極致を味はひ、自から責を引くの覺悟あるものが路に當らずしては何日の日に責任内閣あらんや。今の教育論も亦た之に同じ。今日の通弊は人を責めて躬を責めざるにあるか。苟くも教育を以て任とするものなど迄が、依然たる同類となつては何の面目ありて國民の忠貞なる人に對せんとするや。見玉へ實際の人事は、地位によりて成すにあらず、技倆によつて爲すにあらずや。一家を治むるものは旦那さんだ、おかみさんだと云ふのが平凡の論なるが、更に其實相を看破すると、驚ろくべきは赤子の爲に一家が治まつたり、下女の感心なのが動機となつて一家が丸くなると云ふ如きこともあるにあらずや。此の秘密を看破して、實際の中心とならうとするのが、眞面目の人の心得る所、只だ空名、空位を慕ふて狂奔するのが平凡者の一生涯ならずや。夫と同じことで、日本の文政が文部省によつて左右せらるゝ者と思ふたり、文部大臣の交迭で變るものと思つたりして、夫で騷ぐとは何んたる低い見識でせう。ダカラ吾輩は常に言ふです今の政論は丁度好いお合棒で、政府のお相手には持つて來いの見識だ。今一歩拔けた卓然たる見識を持つて自己に責を引く堂々たる議論を聞かないのが眞に憂ふべきことです。御覽なさい、昔の事を今から振反つて見ると直に分ります。前の關白太政大臣とか何とか謂ふ長い名の地位を取つた人が實際の中心になつたか

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

と云ふと、左様でない、藏人とか舍人とか謂ふ極低い役人が却つて天下の樞機を決したぢやァありませんか。歴史を讀むと云へば此處の秘訣を見るのが肝腎ぢやありますまいか。夫に何んぞや、今日の事となれば、忽ち此の秘訣を忘れて、己が總理にならなければ政治が改革されぬの、文部省が變らなければ、教育が善くならんなど丶謂つて安んじて居ると云ふ、何と云ふ低い見識でせう、林大學の頭が聖堂でチヤンと威張つて居て天下の官學を支配しやうとしても夫でヘコタレるものはありません。例へば維新の風雲を起すに功があつたと云ふ頼山陽にしても、林大學が變らなければ不可ん、聖堂の學權を己に任せなければだめだと言つて居りは仕ますまい。一躰、政府だの、大臣だのと云ふものを左程に買かぶるのが不見識の骨頂です。ナゼ人を攻むるほどの人が自分で任じませんか。學風を變へるのに、人の手を待つに及びません。自己の見識と一個の手腕で十分です。ダカラ、天下に憂ふべきことがあつて、夫が改まらぬとすれば、『夫は己の技倆が足りぬからだ』と斯う自分を責めて、事々に自分を磨き、仲々苦心し、慘澹たる經營を人知れぬ所に施すと云ふのが、

國士たるもの丶雅量です二人三人の弟子を持つてすら、中江藤樹は一世の學風を支配したぢやありませんか。學校が小いから生徒が少いから勢力がないなど丶、自分で極め込むと云ふ、左様な見識のものにヨシンバ文政の事を任せたからとて何が出來ましやう。人世の事は實に面白いです。チヤンと寢て居ても精神が充滿すれば天下を支配します、其地位に登つても夫丈の伎倆が無ければ笑はれものに引張り出された丈の事です。つまりは、自分の人物を憂ふるのが初めです。夫さへ氣にかけて居れば、外に患はありませんよ。ダカラ僕は始終左様言つて居ます、今日の憂患は、人に伎倆が無いのと其の無いことを自分で歎息しないのとにあり升。よく考へて見升と、悪人と云ふものは極少ないです、つまり見識が足りない丈の事です。文部省などを攻撃して日を暮して居ると云ふ、實に情ない學者です。古人に對しては固より、天下無名の眞面目の人に對して何の顔がありませう。私は無名の眞面目の人を恐れます。私等は平常ハイ〳〵と言つて人のお説を謹聴する丹りです、學問は腹の中でこさへるもので、口の尖で人と議論するものぢやありません。議論と云ふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ものは大抵空論です。昔しから實際遣るものは見かけは先づ大馬鹿のやうなものです。

此地に參りましてから、今の政治家の人物評を人から聞かれます。私にやあ、分りません。伊藤さんや、大隈さんはエライのでせう。然し私が最も感服するのは、西郷さんです。多分どの內閣でも西郷さんが居なければ纒りますまい。又、誰も西郷さんをサウ賞める人が無いやうです。ソノ何んとも言はれないで居て、夫であの人が入用な處が目の着け所です。一家の圓滑が赤兒の泣き聲で維持せらるゝと云ふ秘訣を見てから考へると、少しは其の消息が知れます。一家でも、朋友同士でも、一人位は、自分で馬鹿になつて責を負ふたり、尻を拭ふものが無ければ纒まりは仕ませんよ。立つて堂々と演說したり、己が斯々したと得意ばなしなどを爲るもの丈りで何んで治まりませう。西郷さんは矢張り大西郷の弟です。多分、之から追々其の價値が知れて來ませう。此間伊藤さんが、日本經濟會で贋金交換の事を演說なすつて、大相な御得意だつた樣です。「世界の日本」では其の小誤謬とか言つて時日の間違ひ位を直してある丈りで、其外には何とも言ふものが無い、只だ感服して居る丈りの樣です。私は、コチラに來て其演說筆記を讀んで、野口君とも左樣言つて笑つたんです。成程人は、斯樣言ふもので、大事を人知れぬ所に決して、ひそかに機輪を轉じてくれた人のあるのには氣が付かず、ホンノ談判に行いてまとめた位の事で物が出來たと自分で誇つて居ると云ふ、眞とに長閑な事だ。我輩等もアンナ風に獨りで得意がつて居るやうにならない樣にするのが、即はちアノ演說を聞いて學問する所だと、斯樣自分で思つたのです。固より伊藤さんのお得意ばなしを毀すには足りますまいが、あの贋金引換の事には、外に大心配をして之を決した二豪傑があるのです。一躰維新以來外交上の二大困難は、此事と耶蘇敎徒の始末だつたでせう。條約改正などは、先づ其次の事でせう。

外交上の心配で忽ち動搖するは、殘念ながら吾國の國粹です。其替りには、國內の大改革も亦た外交上の刺激で、天智天皇以來いつでも左樣です。維新前、黑船が來た時、風の工合で其の船の向が變る每に早馬で注進したと云ふこと ですが、西洋の風向を見て疑懼する鹽梅は、今も倘ほ其通りです、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

近の頃外交論は動もすると魯士亞を疑ふのですが、魯士亞が馬鹿に非る以上、何の利益あつて我國に害を施しましよう、施こして益の無いことです。コンナ國を取つては誰でも難義です。肝癪もちで、氣短かで、一向利害を構はん日本人を治めやうと云ふものは、千古神聖の歴史ある日本の皇室ヨリです。魯士亞にしても、眼識ある政治家ある以上、コレ位の事は直に分りませう。夫よりは、ヒトロポーが言ふた通り、おだてゝ置て持上さへすれは善いのです。戰勝國とか大國民とか言はせて置て、其内にチヤント利益を占めて仕舞へば濟のです。外交上の心配と云ふのは、先づ此邊にある斗りで、今時國を取られやせんかなどゝ疑つて居ると云ふは、維新前の攘夷論と何も變つたことはありますまい。之からの外交は商賣です。經濟の上で、事實の上から取られやせんかと言ふのが、第一の掛念です。魯士亞などは、モウ朝鮮にさへ御用が無いのです、况して日本に向つて何で相手になりませう。只だ愛嬌を振まいて浦鹽での貿易を都合よくする位でせう。ソンナことは入りやしません。李鴻章と内約して、もう威海衛の邊までシベリヤ鐵道の續きを伸すに違ひありません。

只だ心配なのは臺灣でせう。土匪などの起るは至極結構で、役人に用心させる刺激になります。新聞に、八百の土匪の起るのを其日迄知らんと云ふがあるかなどゝ攻撃してあり升が、夫は土匪の事を知らないのです。土匪の來るは土人にでも知れやしません。只だ敵は本能寺にありの覺悟で、古への武將の如き覺悟で政治を仕なければ成らんのが、酒と女と博奕に斗り耽つて居ると云ふのです。土匪はモ少し起る方が好のです。然し東洋の平和の爲に取つたと云ふ臺灣です、東洋の平和の爲には列國が何とか言ひ出す條理があります。夫は堂々たる理由です。文明の政治は布けず、劉銘傳の仕方にすら劣ると云ふやうでは、何れ難義の事です。

私等は初から左樣言つて居たです、臺灣で六かしい者は基督信徒だから御用心を仕て下さい、マケーやバークレーは尋常ものでなし、况んや半開化人に對しては宣敎師と云ふ者は非常に信用されるものです。必らずや大心配は此方面から起りますと建白も仕たです。果して左樣なつたぢやありませんか。も少しすると尚ほひどくなります。又内地の信徒に取つての大問題と云ふも之です。多分、臺灣の耶蘇敎徒が之から

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一番面倒な土匪でせう。
宗教を信ずると信ぜぬとは別問題として、今日の政治家は大抵、宗教と云ふものの扱かひ鹽梅を知らないのです。天草一揆の時でも御覽なさい。柳生但馬はタヾの劍術遣ひぢやありません、三代將軍ほどの亂暴ものを子供扱ひにして、馬を飛ばせて留めに行つたが、間に合はんので、あとから智慧伊豆を送らせました。さうして、言ひました、宗門の一揆と云ふものは輕々しいものぢやありません、大した事になりますと言ふた相ですが、流石がに但馬です。又、此消息を感服して書いたのが新井白石で、其邊の手心は方今の議論好の政治學博士には解りやしません。大隈さんも長崎で信者を調べて困り果てたと云ふお話しでした。十四五の小娘で、至極おとなしいものが、毅然として答へる。お前はお上の御威光を恐れぬと云ふ不屆なものだと云ふと、私は何事もお上に對して曲事は致しません御年貢もかやう／＼、お務もかやう／＼、然し此教の信仰斗りは別の事ですからと云ふたさうで、大隈さんが其時のお困りは一つ話しです。
然し、宗教に取つては、成る丈け世間から攻擊される内が花です。世間で賞められる樣になると腐敗です。耶蘇教でも左樣です。私等は耶蘇教などはまだ／＼迫害を受る方が好いと思つて居ます。私等が坊さんや、神主と、耶蘇教の人々との懇親會を開いた、あの懇話會は大相な反對でした。去年一パイの宗教界の議論は其事の是非の論でしたが、今年も遣りましたら、モウ何の論もありません。大勢が既に一轉したのです。然し、宗教家が互に集つて話しをするのを奇しむと云ふのは、奇態な事です。何でも、妙な所で勇氣をつけるのが癖ですから。然しソンナ生ぬるい懇話會などをせんで、寧ろ敵對する程にして盛んに傳道する方が善いと云ふ場合もあり升が、夫は亦其の一時です。今日はモウ左樣言ふ時でありません。
耶蘇教の人が、日本の佛教を見ると只だ釋迦の教とする斗りで、此の中に混じて居る日本人の宗教上の習慣と云ふものを看察しません。所謂る坊主を惡んで袈裟を惡むと云ふ工合です。政治家も其通りで、舊幕府の政治は德川氏の政治だと言つて、何もかも變へやうとしましたが、豈料らんや、之は德川氏の政治でなくて、日本在來の政治ですから、段々と復古

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

して再たび之に倣ふと云ふやうに爲つて來ます。自治とか何とか言ふても、元の江戸ほど自治なものはない樣です。德川は武田北條に則とり、武田北條は亦た鎌倉政府に則とつたのですから、舊幕府の政治を見て德川氏の政治だと言ふて打破しやうと言ふのは、書生論ぢやありませんか。女子敎育だつて、男子敎育だつて矢張り左樣です。何ぞと云ふと、獨逸がどうだの、亞米利加の仕組が如何だのと言ひ升が、夫よりか先づ、漢學塾の仕組や、家庭の事や、御殿女中の事でも調べる方が增しです。今の敎育者は直に開發主義と言ひ升が、實際其の遣り方は少しも開發主義ぢやありません、全くの注入主義です。

信玄公の事は兼てウス〳〵聞いても居ましたし、何でも餘程面白い研究物だと思ひ升すから、去年來ると直きに信玄の政治に關して書いたものをスッカリ借りて讀ましたが、眞に些細な事計りしか書てありません。夫で翻然として悟りました。信玄は議論したり演說したりした人ぢやなし、實際に遣つた人だから、其政治が實際には行はれただらう、本に書いてある氣遣ひはない。ヨシ書いてあるとしても、夫は詰らない人

が無暗に崇拜してホンノ外形を書いたのに過ぎまい、書物は當にするに足りない、どうか實際の事が觀察したいと斯う思ひまして、ブラ〳〵して居る中にも餘程注意して居ます。夫で山本君とも談したのですが、どうか、アナタ方のお仲間で、機山公研究會とでも云ふものを、おこしらへ爲しては如何です。自得した人の仕た跡は、看破、觀察して研究する外はありますまい。幸い、四面山で、交通も少なく、恰かも今の學者に己が仕た跡を研究して見よと言はぬ計りに、總ての仕方が其まゝ殘つて居る筈です。汽車の出來ない內が、研究ものでしよう。

信玄公にせよ、誰にせよ、古への名將とも謂はれた程の人は、サスがにえらいものです。アー始終戰爭して居り乍ら、民が能く之に耐へたと云ふ所を見れば、餘程の善政を施こしたに違ひありません。夫に未だ、親ゆづりの封建とはならず、昨日の敵國を今日の所領とする工合ですから、非常に仁惠を施さねば、民が服しますまい。中〳〵今の臺灣の政治位のものぢやありますまいよ。太閤が數万の兵を率ひて小田原を擊つとき、家康は預じめ心配して本多上野を領分內に廻はし、多數

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の兵隊が入り込んで物價が高くなつては、百姓が困るだらうと云ふ用心を仕て置た所が、高くなる所か兵隊か、這入るとガラリ安くなつたさうです。之は長篠の才覺で、かねて準備が仕てあつた柄ださうで、どうも、何れも／＼感服な心掛です。民を以て吾子の如くに見ると云ふ慈愛はエライものです。アンナ大將連が只だ功名の爲に戰爭をして居たと見るのが低い見識です、私は秀吉が竹中に說いたと云ふ說法の所が非常に好きで、彼等の胸中は民の疾苦を救ふと云ふ大抱負を以て活動してるのです。富岡さんも、熊本で淸正の政治の跡を覽られて大相感心なすつたと云ふお話しです。どうか、機山公の事がモット十分に分るやうな硏究が初まつたらどうでせうか。

太閤の朝鮮征伐も、どう云ふ見識から初めたのか分りませんが、兎に角、朝鮮の富を取つて仕舞つたに違ひありません。淸正が取つて還つた丈でも大相のものださうです。朝鮮アメだつて、捕虜か何にかに製らせたらしさうですが、實に拔目が無いぢやありませんか、支那の捕虜にも滯留中何か面白いものをさせれば善つたですナ。

朝鮮に對しては、日本は古來、借金はかりです。廿七八年の役でも、義俠の戰爭だと言ひますが結果を見ると、餘り義俠でもない樣です。朝鮮人が日本人を信じないと謂ふて慷慨する人が多いですが、何によつて信ずべきでせうか、隨分迷惑な話しです。朝鮮に對しては、まだ／＼餘程つぎ込んで、昔しからの負債を拂つて、無要求の信切を十分に盡さなければ成りますまい。義俠々々と言ひ升が、現在、何んな義俠を仕て居ますか。私共の仲間で京城に學校を一つ建てゝ居ますが、今では初の贊成者も不熱心と爲つて仕舞ひました。佛蘭西が四十六年も辛捧し、英吉利や亞米利加が二十五六年も依然として好意を續けて居ると云ふのに較べると實に耻かしいです。夫で、日本人の男氣だと云ふので。弱きを助けない、借金を返さないと云ふ男氣です。西洋人の辛棒づよいのには實に感心です。

チヤン／＼坊主が何うとか謂ふ得意の童謠も、モウ好い加減に廢めさせたいものです。どうせ支那から取つた金ですから、また向ふに返るのは天理ですが、戰爭には勝つて商賣には負け、其上、金貨本位となつて、彌よ支那の貿易で損をす

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

るど云ふ工合ではあり、李鴻章には十分遣られて置いて、夫で、チヤン〳〵坊主と謡ふのも餘り賞めた話ぢやありません。支那人の方では、多分もう負けたことなどは、忘れて居ませう。李鴻章などは初めから負るつもりでしたらう。支那では、兵隊を殺すとなどは何とも思はないのが國粹です。二十萬人を坑にすと云ふ風です。李鴻章の考へでは甘く操つて負けても、構はんから、後で夫を利用すると云ふのです。當時、夫が譯らんとしても、今に至つて、尙ほ誇つて居ると云ふのは、餘り卓見ぢやありますまい。

支那と云ふ國は實に面白い國です。堯舜以來自治制度の國で、アレ程、平民的の國はありますまい。將來は、分割だらうと人もよく言ひますが、多分、分割して夫で分け取つた國が困るのでせう。支那では、政府を取つた國が何時でも損をして自滅するのです。李鴻章などは、必らずしも、漢の政府を再興しようとは爲ないと見え升。其處になると、流石に分つたものです。

我國でも、西郷先生などが、生て居らつしたら、隨分、國の力になりませう。何處まで横着だか知れない程の太ッ腹と、天道人情を確守する偉大の節操とを兼ね合せられた鹽梅は、近世の美觀です。然し、アレ程の偉人が、アー早く一般に賞められたと云ふのが、實に先生を殺した元です。維新の頃には、大奸物と云はれたので、伏見鳥羽の戰に、所謂る君側の姦を拂ふと言はれた奸物は即はち先生の事でせう。何でもアレ丈の事をする人は是非、大奸物位には言はれる者ですが、夫が明治四五年からは直ちに一代の先生と言はれなすつたと云ふのが、即はち反政府の氣運に迎へられたからです。此の氣運に迎へられ乍ら、自分は國に渡て居て、天下の不平を暗々裏に慰藉したと云ふ見識は恐ろしい大きなものですが、不平連は先生を小さく見て、我黨の親方のやうにして、アンナに早く崇拜して、そして早く殺して仕舞ひました。つまり、子分と云ふものは、いつでも親方を殺すものです。

今の西郷先生を慕ふものは、其の先生とせられて賞められるやうに成つた後を眞似る丹りで、大奸物と言はれなすつた頃の決心を學ぶものは少ない樣です。先生が月照と相抱いて身を投げられた所が、即ち十年に私學校黨と共もに打死をせられた所です。此の濃やかな人情に不爲子孫買美田の詩を對照

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

し、又、長崎で鎗持を連れて商賣したり、征韓論などと言つて實は朝鮮の貿易を工夫したりなすつた腹の中とを合せて見ると、眞に恐れ入つたものです。

何でも、當時見ると、不正直の樣にも、馬鹿氣た樣にも、小さい樣にも見えるのが、後から眺めて見ると、ズット筋道が立つて、其の偉大なる影響を生じた所以が分るのですが、其の當時からしてヤンヤと言はれるものに、さう大きいとは無いものです。デスが、あとから見て大きく見えるから、當時に於ても大きく言はれたものだらうと誤解して、其時の愚なる評判をあてにして事を成すと云ふのが、人の癖です。何も後世に名を遺すと云ふ樣なことを考へるには及びません。夫では私です。後世もヘチマもあつたものですか。ダが、自然と後世に遺るほど偉大の關係を持つべきことに力は凝めたいものです。尤も、偉大の關係を持つものはドレダ〳〵と言つて、さがすには及びません。自分が量見を大きくすれば、自然に見えても來るし、夫に盡力せねば、成らぬやうに成るもので。總べて止むを得ぬ所から來るので、平地に波を起すものぢやありますまい。西郷先生が、天を相手にして仕事をすると言はれたのが、此邊でせう。宗教と言ふても、別に變つたものでもありますまい。

今日の學問は、たゞ本を讀んで、覺えて居ると云ふので、言はゞ、牛肉を脊負つて居て、我れ肥えたりと謂ふ鹽梅です。ソウ言ふ學問は實に容易いものです。先達て或る商賣人が言はれました。どうも、段々考へて見升と、學校へ行つて御勉强をなさると云ふのが、一番氣樂な樣ですと言はれ升たが、私は痛く感服しました。成程、本を讀むと云ふ仕事が一番樂でせう。其代り何にも益には立ちません。西洋人が、日本人の爲に書いて呉れた書物ではなし、古人が今の時勢を心配して書いて呉れたのでもなし、皆な其時々々のものです。夫を一々暗誦したからとて、何にも爲りますまい。學問が反つて疑を增して、結句、邪魔です。古人も躬行實踐とか、知行合一とか、實驗智識とか、開發的とか言ふて、何れも實地に鍛錬工夫をすることを切りに敎へた所を見ると、何時の世でも此の學弊はあつたものと見え升。

宗敎の事でも左樣です、イヤ議論は八釜しいものです。然し八萬四千の法論をしても、只一事を欠かは何も爲りません。

弟子がベチャクチャ議論をするから、孔子もシカメ顔をして、一以貫之だよと言はれた樣です。基督も、幼な子の如くなれと言はれました。ツマリ、議論ではダメです。然し宗敎上の發心が起らない中は議論に耳り流れるものです。もと是れ大事の決着の爲めに熱想するものです、閑人が道樂半分にするやうなものぢやありません。夫で、宗敎上の空論は大嫌ひです。先づ煩悶して、眞面目になつて、一大事と思つて考へたら、豁然として悟るもので、夫には學問が入るものではありません。哲學者でも、愚夫愚婦でも同じものです。どうせ、生命がけの苦心を經てからの事です。

新らしい宗敎を開くなどと云ふ人が見える樣ですが、馬鹿氣たことです。古から新らしい宗敎を開いた人でも、ソンナ事は思やしません。たゞ後から人が許したり、弟子が崇拜などをして、新らしい宗派にした耳りの事で、其の宗祖とも謂はるゝ人には決してソンナ考はありません。どうしてソンナひまな、空論見たやうな、事業的見たやうな考へのものですか。たゞ熱狂して傳道して人に平安を得させたいと言ふ耳りで、其の傳ふる所は、古の道、古の聖德を發揮しやうとした丈の事です。ダカラ自分が先づ其本尊を眞と崇拜して、そして人にも其のありがたい事を傳へた丈の事です。今の人のやうに自分から編み出さうとしたものはありません。ソンナ馬鹿氣たことがあるものですか。此等も宗敎歷史を讀み違へて居るのです。

宗敎でも、政治でも敎育でも、皆な一轍で、所謂る愚夫愚婦の人情心意氣と云ふものに徹底せねば、萬事が要緊に外れる樣です。人情を讀むのが第一の讀書ですが、其の人情を讀むのにも。他人を觀察するよりは自から省みるのが先で、自分の情合に考へて見ると歷然として分ります。理想を何處迄も高くして、着手を何處までも低くゝすると云ふ工合は、どうも中々及びません、但只だ學んで居る耳りです。今の學校は。人才を育てるものか殺すものかと云ふは、隨分疑問です。藝術を敎へる職工學校の如きものは別として、敎育と云ふ上から見ると、一も二もなく學校を有がたがるのは少し愚です。一體學校と云ふものは仕組は西洋の眞似ですが、西洋では、學校丈けを當にはしません。學校はホンニ敎育機關の一つです。言はば智育に偏すべきもので、敎育の全體を盡すものぢ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

やありません。日本では其の一部分の事に眞似をして全躰の益を收めやうとし、智育に偏するからと云つて慍ては居るのです。先づ學校を輕んずる位に學校以上の見識あるものが之を活用せねば、學校もつまりはダメなものとなります。女學校の如きは就中左樣です。

コチラから亞米利加の女子大學に送つてある生徒が亞米利加の女子大學には八分はなまけ書生で眞に學問熱心のものは少ないと申して來ましたから、私はひどく賛歎して居るのです。學問に熱心でも無い女生が大學の八分を占て居ると云ふのは大相女學の普及した結果であるし、又、女子大學など、云ふもの迄が、實際世間と密着して居る工合が推察されます。學校が丸で世間と飛離れて居る樣な事は無いのです。西洋の大學校は總て低くいさうですが、其處が見處です。私は女生に始終左樣言ふて居ります、古より儒者が國家の用に立たぬと言はれて來たが、之からは女學生が家の用に立たぬと言はれるのだ、玆に鑑みなければ、歷史を讀むと云ふ甲斐はないと言つて聞かせて居ます。

今度鑛毒被害地方から女の請願人が出掛け出した樣です。あの地方の女は、田口さんの輸出稅全廢の請願運動にさへ出た位で、少し變つては居ますが、變つたと丈け言ては眞相を得ません。近頃の注意すべき事件は、鑛毒問題ですが、不思議にも人々が輕く見て居ます。御覽なさい、之は大した事になりますから。停止は出來ず、停止せずには置けず、非常な困り者です。此の困り所にチヤント道は備つて居て、唯一つしか仕樣は無い筈ですが、迚も今の工合ではソウなるまい、スルト彌よ騷ぎになる計りです。元々關八州に係ることです。天海僧正が、日光を置いて水源を維持したと云ふ所です。其の水源から毒を流すのです。騷ぎになる筈ぢやありませんか。停止にならねば、田中君はつまり牢屋の人となる。田中君か居なくんば第二が雲龍寺の坊さんとなる。此の坊さんも牢に這入れば、第三が青年連中で、チヤント今から筋道が見えて居ます。毒を流しつゝ調査も無いものです。コレカラの騷ぎは此事件でせうが、不思議に人が小く見るのは何故でせう。東京から大磯に行く丈の事で、礦毒地に行つて見られるのに、行て見る人も少ない。そして政治家は世話しい〳〵と言つて居ます。何が世話しいのですかしら。私は田中君をよく知つ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

て居ますが、極度まで行んで止る様な人ぢやありません。

女學

町村内の鎭臺

京大坂の町内の附合は冷淡極まるものにて、中にはお隣の人と顔を合せ乍ら言語を交へざるものすらあり。一去一來を風雨同様に見做して、一向に頓着せざる躰は不人情甚しきが如くなれど、繁劇にして變化多き大都會に於ては、勢ひ已むを得ざるとなるべし。

之に反し、田舍の附合ひは、都の親族間すら及ばざる濃密のものにて、知り合は言ふに及ばず、知らざるものすら、互ひに挨拶するほどなれば、一町村内の親密は都人士の想像に及ぶ所にあらず。又、よく〳〵血すぢを質せば、大抵、遠近の血統を引き、嫁の親類、婿の親類、叔父叔母の親類など、八方に網の目の如く連なり、大抵、多少の關係を有たざるはなし。交際の親密なるは、當然と言ふべし。

交際の親密なるは、人の心を多く集むると同もに、亦た人の目をも多く集むるものゆゑ、誰しも八方より見つめらるゝ心地して、一人我儘の事を為すものあらず。旅の恥をかき棄にするは、知り合の人の見ざるが故なれど、懇意の人に常に見らるれば自から愼しむもの也。此に於てか、制裁も立ち、習慣も熟し、其地方丈けの堅固なる團結をつくる。既に團結をつくる、至治の根抵は出來上りたるものゆゑ、凡そ政治なるものも、此の根抵によつて修飾するに過ぎず。到底、田舍の町村の風俗に違ひたる政治は行はれざるもの也。

而して、此等の町村には、必らずや、一軒二軒の名家舊家なるものあるべし。一町四方もあらんと思はるゝ土塀を家の四方に圍ひ、巍々たる土藏幾棟、朝日に黑土のつやを輝やかして、宛がら王侯の居城の如し。家の素性を聞けば、昔し何の時代の落武者なりとか、又、名ある侍の二男三男なりとか、實際の當否は何れとしても、兎に角に、今は神聖なる系圖として家の寶となり居るものあり。出入小作はお旦那と崇めて尊奉歸依大方ならず。路傍に相合へば、道をさけ、頬かむりを脫し、腰を屈めて禮を表す。如何なる事にても、此のお

旦那たり、長たり、庄屋たる人の向背によりて是非を決す。町村内の裁判も、法律も、道徳も、經濟も、兵備も、皆な此の旦那衆の意向によりて定まる其實相を言はば、恰かも一町村内の鎭臺たる也。

左らば、此の鎭臺をして確乎不拔の地に立たしむるは、即はち一町村内に平安を維持するの根本なり。天下の政治の善惡を解釋するも此の鎭臺の向背による也、租稅の厚薄當否を評するの此の鎭臺の向背による也。たとひ、天下亂るるとも、此の鎭臺にして泰然たらば、以てよく一地方を鎭撫することを得べし。此れ政治上の秘密の鐵鎖なり。

此をもて、善政に注意するものは、深かく町村内の舊家名家の向背に注意す。賴朝の如き、家康の如き、皆な是れ也。左らば、歷史あり、品格あり、資産ある各地方の名家をして、單に鎭臺たるの重きを爲さしむる耳あらず。有益にして健全なる重きを爲さしめ、以て、進步する善政に助勢せしめ、事實上の治安に要益なる合力を爲さしむるは、經世家の深く念とすべき所ならん。

而して、舊家名家の興廢を支配するに、最も勢力あるものは何ぞと問へ。言ふ迄もなく、當主人の心掛一つにあるとは誰も愚論なかるべきが、之に劣らざる（否な田舍に於ては優るほどの）關係を有するは、其内助者たる婦人の心掛一つにあるなり。都の如く活潑なる事業をもて家を興すものには、主婦の内治の屆かざる、倘ほ忍ぶことを得べし。地方の町村にして、旦那衆の家となり、出入の人々に情合の滿足を得させて知らざる内に微妙の感應を施こすべき家庭に於ては、主婦たる人の心掛の家の盛衰に影響すること更に强烈なり。

田舍の大盡などの考にては、家に金さへ溜めれば大丈夫なりと思ふ族も時としては之れ有り。就中、成り上りものには、此の高慢の多すぎるものなるが、是れ實に人情を辨まへず世事に熟せざる飛んでも無き大間違ひ也。人の好意の積もり積もるときは、知らざる所に潛勢力を存して、一家の基礎も安泰なれど、但だ金力にのみ依賴して、人の怨みを構はざるときは、不思議なる時、不思議なる所に、其惡結果を生じて、存外の出來事より一朝にして家を亡ぼす例、古今に其類多し巨万の富ある家は潰れがたきものの樣に思ふと、是れ大なる誤まりなり。潰る可き氣運に向へば、富たる家、大きなる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

家ほど倒るるとの早きもの也。これ倒さんとする人の多きと、維持し得る人の少なきとによる也。左れば、身上を造り上げたる人の二代目に、あれでは、維持する丈の事なるべし、先代とは大違ひなりなど言はるる程の人物なりとせば、其の遠からずして家を倒さんと火を睹るより明らか也。産を造る難けれども、維持するは更に難し。眞に能く維持するは豈に容易の事ならんや。深く人情を味はひて、徐ろに世人の怨みを解き、段々と家の基礎を人の好意の心中に据ゑて、火に燒けず、水に流れず、凶荒に損せざるの所に家の世襲財産を積むの工夫を知らざれば、能く家産を維持すとは言ひがたし。夫には、慈善も必要なり、施しも必要なり、家の收入の若干は之を散らして、所謂る一町村内の人々の懐の内に預け置くの度量を大切とするとなるが、之に劣らざるほどの勢力あり、又、之と并び行はれざる可らざるは、即はち、家の妻たるは人の緩和力これ也。

妻の裏面の内助をもて、剛氣一邊の主人の取扱ひを優しくし、表面に筋道を正すと同もに、人情の曲折を和らげ、何ものも敵しがたき婦人の愛嬌をもて、四面の楚歌を樂しくするの工夫は、一に是れ婦人特得の天稟に依賴せざる可らず。田舍に行て聞けば、アノ家は、お內寶で持ち行くと云ふ風評を聞くと屢ばなるべし。如此く其名の顯はるる程に至りしは既に吉兆にあらず。成べくは、斯る風評の未だ起たざる內に、妙に婦人の內助をも惡評判を打消すべし。されど、斯る評判の各所にあるをもて、亦た婦人の勢力の此邊に莫大なる消息を窺ふに足らん。

故に、町村內の舊家名家をして實際の好鎭台たらしむるは、國家治安の根底にして、此の事業に効力あらしむるほどの女子を養成するは、天下の一大事にあらずや。敎ふるもの及び敎へらるるもの、當に其の重大の責任を感ずべし。

（本誌第四百三十四號録載たる室家の女學を參照すべし）

いはでおもふ心ひとつのたのみこそ
知られぬ中の命なりけれ　篤氏

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

方今女學界の一戒心事

（卑劣なる女子敎育者）

曲浦生

我國民今や、上下交々女子敎育の振作を是認して、各女學校共に生徒の數を增加し來り、且つ又高等女學校の新設せらるゝもの、其新設を計畫するに忙しきもの、共に尠からず。而も敎育者往々にして、一縣下必ずや、少くとも一の高等女學校を有せずんばあらずと主張するものあるに至る。刻下の現象の如き、素より女學界の爲めに、之を慶賀せずんばあらず。然りと雖も、彼高等女學校を設立し、または之を設立せんと企圖する、敎育家連中には、往々時運の宜しきに際して、眞に女子敎育の普及隆興を希望するが爲めに非ずして、却て野卑賤劣なる精神の動機に因して、表面上殊勝らしく、外聞よき此擧に出づるものあらざるとなきや。此種の輩もし是れ有りとすれば、彼等は蓋し女子敎育界の奸物にして、却て之に忠なるものを害傷せんとするものなり。彼等の事業は、虛名空利の爲めに在り、されば彼等が如何に叫んで、女子敎育振作を唱へ、女學校の創設を計るとも、此等は眞に女學界を補益することなし。夫れ物の盛んなるに當りてや、似て非なるの徒、頻々として起り、之によりて活路を求め、虛榮を貪らんとするは、世の常事にして、今日女子敎育の盛時に際して、多くの似非女子敎育家の輩出する、またこれ止むを得ざるの故なりと雖も、吾人は斯道の爲めに、此種の似て非なる奸物を排去せずんばあらず。

今爰に一の實例あり、彼種の奸物が、如何に盛運なる今日の女子敎育界を攪亂しつゝあるかを見るべし。これ單に一例なり、されど、同種の事情は、國內を通じて、豈に一二の尠きに止まらんや。

關西地方の一都會（爰に其名を擧げじ）に一基督敎主義の女學校あり、十年以前の創立にかゝる、此校は元と、某氏が同地方女子敎育の振作せざるを慨嘆し、赤心熱誠を抽んでゝ、傳道會社の補助を仰ぐとなく、二三有志と共に、初め微々たる破屋裡に一臺の卓子、數脚の椅子を得て、僅に一女學校を開始したりしが、芳志精勵空しからず、日に月に盛運を重ねて、今日に於ては、堂々たる一校舍を有して、關西地方屈指の一女學校たるに恥かしからぬまでに至れり、然るに爰に同

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

地の高等尋常の小學校に從事せる敎員輩の中に、該女學校の盛運を見て頗快からざるものあり、其基督敎主義を奉ずるは、國家敎育の主旨に反すといふを口實となして、數年前彼等相計りて、一の高等女學校を設立し、單に一の私立なりと雖も、之に私立の稱を冠せず、竊に縣立に擬して、希望する處、高等小學卒業女生をして、彼に入らしめずして、此に來らしめんとするにありき、然りと雖も資金素より有るにあらざれば、熱意至誠なきの輩、如何てかよく之をして盛大ならしめ、如何でよく子女り敎育することを得んや。設立以來微々として毫も振はず、遂に僅に其名稱を存するに止まるのみとなりしも、彼等敎員は、己の敎育せる毎年の高等小學卒業女生に向つて、公々然、彼異敎主義の女學校に入學するの不可を說き、而して暗に自己設立の女學校に入學せしめんとすと雖も、空名を擁するに過ぎざるもの、之に入りて、何をか學び、何をか修めん、秩序整はず、學則立たず、加ふるに、敎師の多くは影法師のみ。笑ふべきは、昨年の事なりき。敎育上に經歷ある某氏、同縣の參事官として赴任するや、諸學校を巡視して、彼高等女學校に赴きしに、同校にては、元來

敎師の數甚だ不足にて、不體裁なるより、俄に數人を雇ひ來りて、敎員の影法師を作り、以て一時の面目を彌縫せしとぞ傳ふ。

其後該校は校名を變じて、名を實業に假り、時世の流行を追はんとするも其効なし。之に反して彼基督敎主義なる女學校は其反對をものとせず、冷々看過しつゝ、時運の際會する處近來頗に隆興し、生徒日々に增加し、校舍爲に狹隘を告ぐるの狀あるより、卑劣なる彼敎員輩は、種々之に向て反對妨害を試み、現に本年四月度の高等小學卒業女生中更に高等敎育を志望するものも、多く彼等の惡手段に妨げられて、同校に入學する能はざりしとぞ。彼等は猶、之を以て飽き足らず、時恰も高等女學校設立の必要を唱ふるの聲、敎育社會に盛んなるよりして、我田引水の私利、今や營むべしとなして、殊勝らしくも、其設立を縣會に建白したり。此設立もし眞に女子敎育の普及を企圖するの故ならんには、頗る之を賀すべく、何ぞ一校といはんや、縣内二校三校を有するも可なり。然れども本旨、彼の賤劣卑惡の點にあること、縣會議員中、また之を看破するものありて、敢なくも此議案は否決せられた

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

りといふ。此事、もし之を單に其表面より察すれば、縣會議員等、女子教育を輕ずるに似て、內實卑劣なる彼教員輩の私心を制して、却て女學界を思ふの所以となるもまた奇ならずや。

彼高等女學校の關係者等が、彼基督主義の女學校を仇敵視しつゝ、而もまた或時の如きは、兩校を合併し、同地出身にして、目下東京にて教育に從事せる有名の一老婦人を擁して校長となさんと企てし事ありしとは、吾人は親しく之を彼老婦人より聞知せり。然れども、彼等基督主義女學校にては、校長はじめ、さる話を耳にしたる事さへ未だ曾てこれなしといふ。」

以上はこれ吾人の親しく見聞せるの事實なり。如斯きは果して、女學界の爲めに默々看過すべきものなりや。吾人は彼卑劣なる教育者の擧動を惡んで、また彼等の爲めに之を痛む。

彼等殊更に如斯き賤悪卑劣の手段を廻らすものに非ざるべきも、所謂國家教育主義の迷妄に陷りて、基督教主義の教育不可なりと誤信するの所以なるべきも、其行爲はいやしくも教育の任にあるもの、決して爲す間敷きものならずや。而も誤迷なからも一の主義を有して、飽くまで之を遂げんとするは、なほ恕すべし。然るに他の孜々として斯道を奉じ、諄々子女を教育し、其效績頗る見るべきものあるを見て、嫉妬禁せざるが如きの擧動をなすに、通常人としてすら、之を非難すべきに、況んや、身國民を開發指導するの任にありながら、此卑劣事をなす、斯道の爲め鼓を鳴して之を責めずんばあらず。

聞説、前に彼高等女學校の創立首唱者にして其校長たりし某は、當時其本職は高等小學校の校長たりしが、彼曾て人に語りて、教員などいふものは、つまらぬ、何か甘い儲け口はありますまいか、御周旋を願ひますといひしを聞けり。彼れは遂に私行脩まらざるとあり、不信任の極、任に堪へずして、其職を去りたりといふ。吁此人を見て、其事業を見るべし。其女子教育、畢竟、羊頭を懸けて、狗肉を賣るものならずして何ぞ。同地方の心ある徒、頗る彼校を信用せずといふも亦宜ならずや。

この痛嘆事、これ實に彼縣下教育界の一現象なりと雖も、顧て此種の事實の、なほ他府縣下に於て徴すべきものあらざるやを疑ふ。彼高等女學校設立を唱へ、女子教育振作を呼ぶものにして、眞實女學に忠なるが爲めに非ずして、却て其行爲

之を害するの奸なるものなるとなきか。假面をかぶりたる教育者をして、時世に乗じて、女子教育を唱へしむるとなきか。彼等の女子教育は恐るべし、吾人は甚だ之を恐る、故に以上の痛嘆すべき一實例を記して、方今女學界の戒となす。

小學女教員の需要

女子教育の振作は、一方には高等女學校を各地方に起し、他方には、小學校に多くの女兒を就學せしむるに有りとは、方今の輿論にして、至當の事なるが、其小學校女生徒の就學を奬勵する方案に就きては、近來所説頗る多きが中にも、女兒を教育するには、女教員最も適當なれば、盛にこれを養成するは、女子就學を增加するの所以なり、之が爲めに方術を盡くすべしと論ずると、万口殆ど一途に出づるを見る。

女兒を教育するには、女教員を以て最も適當なりとなすとの説は、吾人の俄に首服し難きものにして、男教員の女兒を教育して頗る適當なるを見、却て男兒の教育者として、女教員の適當なるを認むるとあるなり。されば吾人はたゞに女兒教育の爲めといはずして、小學校生徒全体の教育上より、頗る女教員の切要あるを見て、其養成を忽せにせず、又高等女學校、または私立女學校の卒業生を採用するとも、これより益多からんとを希望するものなり。

單に教育上より見て女教員の需要の增加し來りたるは事實なりと雖も、また經濟上、即ち小學教員の給料の增加と、社會の生活程度の增進とによりて、男教員に欠乏を生じて、こゝに給料の比格上低廉なる女教員を採用するの多きを加へんとするもまた事實なるべし。多くの點より觀察して、今後女教員の需要は、日々に增加し來るらんとはする也。

女子高等師範學校保姆練習科

昨年十月女子高等師範學校内に保姆練習科の設置せらるゝあり、本年秋季には、其第一回の卒業生を出さんとし、又既に第二回練習生の募集に從事しつゝある事は、前號紙上時報欄内に明かなり。然るに同科の事に就きて、種々質問を寄せらるゝ向きも有之によりて、委細を同校庶務係に問ひ合せたる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に、回答ありしと、大畧左の如し

近來幼稚園の施設は漸次國内に擴り、教育上祝すべき議に候得共、中には往々「成績良好ならざるものあり、是一は保育方法の未だ整備せざるによるべく候へ共、蓋し保姆其人を得ざると、最大の源因なるべしと存候故に、此際保姆養成の方法を研究するは、實に幼兒保育の改良上必須のとなりと存候、是當校に保姆練習科を設置せし所以に有之候、而して第一回の生徒は昨年十月に入學を許可し、現在學者十四名なり、今回の募集は即第二回目にして、來る九月十一日より入學せしめん豫定に有之候。而して該科の修業年限は一ヶ年にして、卒業の上は服務義務等の規定は無之候へ共、そも〳〵幼稚園保姆志望と云へるとは、當校に於て該科に入學を許可するの一要素に有之候故に、當校は該科卒業生に對し、就職を强要せざるべきも、卒業生は事情の許す限り、可成進て服務するは當然の義務に可有之候、入學試驗の科目及び日割等は左の通に候、但し修業年限六ヶ年の公立高等女學校を卒業せる者、及尋常師範學校第二學年の課程を修了せる者は、躰格、圖畫、音樂の外試驗を行はざる筈に候。且又地方在住者にして、入學志望なるも上京の上、當校に於て入學試驗を受くるを要するがため、出願を躊躇し、自然應募者僅少なるが如き事情も有之候はゞ、試驗執行方便宜府縣知事へ委託するも差支なき見込にて、既に其旨各府縣へ通牒し有之候云々。

○入學試驗日割

七月一日 午前九時より十一時まで 國語 講讀、作文、 午前十一時より十二時まで 歷史 本邦
午後一時より 躰格
仝二日 午前八時より九時まで 算術 比例まで 午前九時より 音樂 單音唱歌
仝三日 午前八時より九時まで 理科 大意 午前九時より十時まで 圖畫 毛筆鉛筆の内一を選はしむ

◎備考 程度は總て六ヶ年の高等女學校の程度に有之又國語は近世の國文のみに有之候事

之を規則に參するに、同保姆練習科の學科課程は左の如し。

第一期

修身	人倫道德の要領	毎週二時
教育	總論各論保育法	毎週十三時
理科	庶物	毎週二時
圖畫	自在畫	毎週三時
音樂	單音唱歌樂器用法	毎週四時
		合計二十四時

第二期

修身	前期の續	毎週一時

教育	各論保育法實地保育	毎週十七時
理科	前期の續	毎週二時
圖畫	同	毎週二時
音樂	同	毎週四時
		合計二十五時

第三期

修身	前期の續	毎週一時
教育	保育法實地保育法	毎週二十三時
音樂	樂器使用	毎週一時
		合計二十五時

大阪市の慈善事業（一）

◎私立感化慈救院（西區川崎二百番屋敷）

明治二十六年四月の創立にして、其目的は引受人なき出獄者を三年間保護して、これに自活の方法を授くるに在り。在院者の十分の三は、印刷、坭工、理髪等に從事し、其餘は水道工事等に從事す。在院者の現在數は五十二名なり。印刷業者中山万次郎氏この院の主任者として、外に二名の補助者あり。本年の收入は三千圓の見込にて、財源は慈善家の寄附并に在院者の獲る賃金なりとす。

◎大阪婦人慈善會（事務所東區本町橋詰大阪博物場內）

本會員はチクタイ、其他種々の編物、造花、岡詰等を製作し、之を賣却したる收入を以て、慈善事業を企て、また災變の救助資に充つ。同會は明治二十二年九月初めて設立せられ、爾來種々の慈善事業に出金したる總額は千五百圓なり。會長は大阪府知事內海忠勝氏夫人、副會長は土居通夫氏夫人みな子なり。

◎慈善新報社

慈善新報なるものを發刊して、慈善事業を奬勵し、且つこの新報の收益は、之を貧窮者の救助費に當つ。持主は石四甸一氏、主筆は谷頭辰兄氏なり。

◎汎愛扶植會（東區天王寺千四百〇五番屋敷西念寺內）

孤兒を救濟して、彼等に普通教育を授くるを以て目的とし、數多のマッチ製造會社と特約を結び、孤兒、マッチを製造す。本年三月夜學校を開設し、一般貧民兒女の入學をも許可せり。會は會員の出金并に慈善家の寄附、孤兒の收得賃金を以て維持す。昨年創設以來、今日まで同會にて救濟したる孤兒の數は百二十三人なり。會長は加島敏郎氏なり。

◎大阪慈惠院（東區瓦町二丁目淨宗寺內）

明治二十六年の創設にかゝる。目的は男女孤兒を救濟して、彼等を教育し、また彼等に生活の途を與ふるに在り。十五歲以下の男兒孤兒は近傍の小學校に通學し、六歲以下の幼兒は院內にて保育を受け、年長者は出でゝ商家の徒弟たらしむ。現今同院の貯蓄財產は五百圓を有し、孤兒の數四十名あり、管理者は佐藤了順、木村忠三郎、谷頭辰兄の三氏なり。

◎大阪慈惠病院

明治二十一年初めて設立せらるゝ處にして、院の資產は、社員の定額出金并に普通寄附より成立す。設立以來施療を受けたる患者の數は九千三百六十二人なり。社長は廣瀨龜之助氏、副社長は山口善次郎。田村太平の兩氏。病院長は緒方維準氏、副院長は江口襄氏なり。

◎博愛社（西成郡鷺洲村大仁）

郡部に屬すと雖も、これ大阪にて第一に屈指すべきの慈善事業にして、該社の事情は、本誌第四百三十四號教育欄內なる『大阪博受社の教育』てふ報告を讀むべし。

○女子の敎學

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○女子の就學

女兒の小學就學の尠き原因、及び之が救治策に關して、近來諸說頗々として起り、本誌にてもこれまで屢々數多の異說を紹介したるが、今又埼玉縣教育雜誌に見えたるものは左の如し。

◎女子の不就學及び中途退學多き原因

一、舊來の陋習より父兄が女子教育を無用視すること

二、子守其他日常家庭の用事を補助すること女子は男子より多きにより女子を驅りて之に從事せしむること

三、女子は教育を施さゞるも敢て支障なしとの誤解をなし居ること

四、母自身が無教育なるが爲め其子にも左程教育を施すに及ばすとの感想を抱き居る事

五、實際貧窮の爲め女子を就學せしめ能はざる事

六、現時教育の方針は主として男子に都合好きも女子には不適當の點少からざる事

七、現時學校にて教授の實際を窺ふに常に男子を目的として女子は殆んど度外視せらるゝの傾ある事

八、今日の裁縫教授は形式的にして實用に迂遠なる事

○此に對する救濟策

(一)全くの不就學者を減らす事と(二)中途退學者を防止するとの二途にして、其の方法としては(甲)嚴命を發して就學の督促を勵行すると共に(乙)父兄を召集して女子教育の必要を勸告することゝの二法は主として理事者の務むべき事なり(丙)女子教育の方針を確立し、女子に適切の教育を施すも、更に之を小別していふ時は(イ)出來得る限り男女學級を區別し(ロ)修身算術讀書作文習字等の諸學科は、男子より程度を低くし、且可成女子に適應せる材料を撰び(ハ)女教員を聘用して專ら之に擔任せしむることの三項と(丁)裁縫科教授の改良を計ること、即之を小別していふときは(イ)他の諸學科の教授時間を節して裁縫科教授の時間を增すことと(ロ)裁縫用の材料として新奇のものを競はしめざることと(ハ)虛飾的贅澤的及び玩弄的のものを嚴禁する事(ニ)裁縫科中にて洗濯、色上、浸拔、補綴の諸法を授くる事

又、本月一日二日の兩日、盛岡尋常中學校に於て開設せられたる奥羽六縣北海道教育大會に於て、提出せられたる女子就學を多くするの方案に就きて」の討議ありて、秋田縣安藤富治氏は女子不就學の原因を、

第一　父兄其必要を認めざる事　　第二　裁縫科の設けなき事
第三　子守家事等に關係ある事　　第四　督責の不充分なる事
第五　女教師の欠乏せる事　　第六　男女共學を厭ふ事

等に歸すべければ、これが救治法としては、

第一　尋常小學校に裁縫科を設くる事　第二　男女共同を廢する事
第三　女教員を養成する事　　第四　就學の督責を嚴密にする事

等なりと論じ、岩手縣の山中竹樹氏は

原　因

第一　父兄必要を感ぜず　　第二　貧　困
第三　學校制度の不適　　第四　裁縫の不完全
第五　女子に特別なる訓練を欠ぐ　　第六　母たるものに教育なし
第七　子守をなさしむ　　第八　服裝に苦しむ

○救治法

各府縣に高等女學校を設立し、高程度の教育を受けたる女子を養成する時は、父兄はあれ程の教育を受けたる女子あり、我々の女子も責ては、小學教育丈をも受けしめざるべからずとて、就學家者の數を增加せん。

また之と共に他方に於て女子の教育法を改良すべきなり。

といひ、山形縣富永脩一氏は、增加法案として、

第一　地理歷史理科に代ふるに家事科を以てする事
第二　尋常第三學年より裁縫を科する事
第三　子守學校を設立する事
第四　小學校に幼兒を負ひたるまゝ女子を出校せしむる事、

と論じ。各自の研究、多く勉めたりと雖も、所說中には。俄かに首肯し難き事、

富永氏の第一項の如きものありと雖も、何れも以て教育者が參考の料となすべし、

○大奥の服裝

（三橋刀自の話）

◎正月元日は、御臺樣は今の宮樣などの日本風の御衣裝の如し。其他の五節句の御衣裝を御話し申す可し。

◎掛け(かいどり)は地黑か地白にて、地は菊形、模樣は、卍源氏車、業平菱、藤、牡丹などを金銀或は色糸にて麗敷縫ひ出すなり(裏は紅絹)。

◎召間(上着)は地紅、横紋、綾羽綸子、裙は赤、下着は白なり。着やうは襦袢の上に着す、其上の白は二枚合せて着るなり。(少しも裙を開くごとき、ゾダラクなることなし。)

◎三月上巳は召間白の綾綸子、裙赤なり。帶は幅狹く、繻子にて、緋又は萠黄の色などの鮮かなる縫あり、前帶に結ぶ。頭は下げ髮なり、眉をおく。これは七種、上巳、重陽、正月三ケ日及び式日等の重き時にして、御臺樣も御年寄も御小姓も變りたることなし。侍女は給り物を着るゆゑに、新古の差あるのみ。模樣は中模樣(袂と腰の邊)惣模樣の別あり。

◎夏は附帶と稱し、錦にて丸く作りし帶なり、ピンと左右に伸びし結び方なれば、狹き處は身體を斜にして往來す。袘は着ず。着物の地は絽又は晒しにて、鮮かなる繡あるとは袘に同じ。涼しき模樣にて水草に鯉などなり、裏は麻を用う。襦袢の袖は夏冬ともに半袖なり。

◎畧式又は平常の時には、縮緬の袘を用う、御臺樣の御好みに由れば暈染に花の雲を見せ、袖には小督が琴を彈じ、裙には仲國が馬上に笛を吹く圖などあり。又は御休息の時には、被布などを召させ給ふことあれど、全く御部屋のみなり、侍女は勿論、かゝる姿にて御前に出づることなし。

◎髮は御臺樣は式日の外は丸髷に花笄などに結ばせ給へど、侍女は小姓(十六七位まで)の島田の外は、皆片ハヅシなり。(式日には小姓も下げ髮なり。)かゝる時には帶は矢の字に結び、地はモウルなどを用う。

◎黛(まゆずみ)のつけ方の面白きはお小姓にて、天然の眉毛の少し上にへの字におくなり。

◎御召物も御平生は縮緬類又は縞物をも召へ給へど、全くの御部屋着なり。

◎御裀は金襴のふちに中は緋繻子などなり曲籙は用ひ給ふとなし。御座の背後には腰屛風などおかせ給ふとあり。金泥に花鳥などの圖多し。

◎牛乳の純否を知るには、先づ木綿針を取つて火に焙り、よく之を乾して濕氣を取り、之を拭ひて、乳汁中に入れば、混交物ある乳は、忽ち針の周圍に附着するも、純良なる乳は決して附着することなし。

◎鮮魚の腐敗を防ぐの法は、硼酸一瓦(一瓦は二匁五分)を熱湯百瓦五勺位の割に溶解して冷却し、鮮魚を其中に浸し置くときは、腐敗を防ぐとを得べし。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

評　論

本佐錄を讀む

落花淡人

本多佐渡守、家康の幕僚たり。後、二代將軍の爲に、天下の治亂、國家の盛衰、人君の存亡、万民の苦樂等の由て岐るゝ所以を筆答す。冒頭第一章に、天道を知る事と題して曰く、」

天道とは、神にもあらず、佛にもあらず、天地の間の主にして、しかも躰なし。天心は万物に充滿して至らざる所なし、たとへば、人の心は眼にも見えずして一身の主となり、天下國家を治むる事も此心より起るが如し。彼天道の本心は、天地の間太平に、万人安穩に、万物生成するを本意とす。また天下を持つ人を天子と云ふ。天下を治むべき其心器量にあたりたる人を撰び、天道より日本の主と定むる也。‥‥日本も唐も上代も末代も人の心にかはりはなし、天道を知らずしては、心を勞し形を勞しても天下治らず、天道を知つて天下を治むる時は、心

を勞せず、形を勞せずして自然に天下治まり、子孫さかふる也。‥‥‥天道の理、大方を書付侍べれども、言語に述られぬ一段あり、但だ天なり、理なり、亦權道といふ事あり。

天道を述べんとして、言盡さず意盡さざる所あるを覺え、忽ち喝破して、天なり、理なりと斷じて亦忽焉「權道といふ事もあり」と言ふ所、眞に是れ道を知る政士の本懷なり。凡そ天道を知るものにあらざれば、權道を知るべからず。彼の淺薄なる術數權謀の才子たるもの、安くんぞ能く此邊の調味を與せんや。

次に、身を端しうする事を說きて、私慾を制し、仁慈を施すべき由を述べ、且つ曰く、

古の聖人は一藝もなくして名は万代に殘り、子孫長久なり、夫れ智慧は磨かずしては明かならず、其の磨やうに習あり、堯四百餘州の天子となつて丹朱と云ふ子ありけれども民を養ふ智慧なしとて天下を讓らず、大臣卿相の中を察しても、民を養ふ智慧なしとて讓らずして、歷山と云ふ所に田を作りて居る舜といふ人賢人なるを聞て天

下をゆづる。智慧の廣大なるを聖人と云ふ。天地始りて今に及ぶ迄、堯舜ほどの智慧の廣大なる人はなし、其の舜の智慧のみがきやうは、中庸に、舜好レ問而察ニ邇言一とあり。此心は、我廣大なる智慧をば智慧ともせずして、諸人賤しき者も、天下の爲になるべき事を問、又目前の淺き事をも問ひ聞て、扨て諸人の善言の内にて、勝れたる善言を舜の廣大なる智慧にて察して、扨て夫を吾智慧にして天下を治めたり、是れ聖人の智慧のみがきやうなり。

立論尋常の如くして意氣太だ超脱、たとへば手づから嚢中のものを索りて出すが如く、殆んど自得の語調あり、素より是れ書生の論にあらず

人を擇み人を用ゆるとは、佐渡守等が苦心中の最も慘憺たりしものなるべし。其の一節に云く、

周の文王武王天下を保ち玉ふ時ほど世の盛んなる事なし、其時だに才愛徳を兼たる臣下は九人ならではなし、其内に女に一人あり、世に有がたきものは能き人なり。天下の治るも亂るるも、近臣二三人の間にあり。……驕をするもの、欲深きもの、分に過たる躰をするもの、才覺の過たるもの、主に邪欲をすゝむるもの、辯舌聞て誠少きもの右の六は私欲の一より生ずるもの也。此覺悟ある者は、天下第一の覺えありとも、天下にはゞかる物しりなりとも、惡人と心得て近所には置くべからず。……

人の氣方を知る事何ぞ、用所の時、第一目の内、第二五音、第三顔の色なり、此の三ッ常の行跡に違はゞ其者は中智の人と知るべし。又、本心正しからずして作り行跡をするものあり。いづれも智慧の眼にあらねば見えかぬる也。

後見の擇みやうは第一律義、第二智慧、第三武勇なり、其人の知りやう有り、其人、我家に居て公界のなき時に何事をすき、何たる者と相口ぞ、何事を好き物語りするぞ、取分て心を付べき事、内の者の仕置、百姓の仕置を見べし、是にては眞の本心あらはるゝもの也、是れ聖人の人を知やうなり、……人には利あまりて諸藝に達し、辯舌きゝて小さき智慧のもの多し、無調法にして大きなる智慧あるものあり、稀なり、尤とも能き人なり、此段

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に心を附けべし。大工の木をつかふ如く其智慧々々にあてがいつかへば事叶ふもの也‥‥‥聖人も人の善悪を見る事、一往二往にては成かぬると也、心をつけ、ためし見ること肝要なり。

民を治むるは、愛するにあり、愛するは其形を以てせず精神を以てす。故に云く、百姓は財の餘らぬやうに、不足になきやうに治る事、道也と。又曰く、

天下の主人は、日本の國土山川を能く作る事とを數寄屋と定め、其中の万民を客と請じ、其人の心に應じ申すやうに亭主ぶりを致したらば、天下第一の數寄物たるべしと。

寛濶の雅懐、眞に掬すべきならずや。而して、彼が道に疑を生じ、遂に之に悟入したる消息を述べては曰く、

吾は、天下の久しく治まりたるは何事ぞ、今又一代二代に亂るは何事ぞと云ふ工夫より道に入りたり。爰に至りては、天下國家の主人は心を盡して工夫すべきと也と。

而して、其の道を勵行するの武斷的決意をもらしては曰く、

今の世を治むるには仁義の道ばかりを以ては治らず、主の恩を忘れて國を傾むけ、又、子は親に不幸をなし、道に背く悪人あらば、智慧と、威光と、武勇とを以て、かたおしに亡すべし、と。

今にして政道を念ずることの切なる如此き士あらしめば、眞に邦家の慶事なるべし。

獻言

世上巨悪の責任

激烈なる殺人罪の多きと今日の如く太甚しきは、從來未だ聞かざりし所也。之れ其の俄に巨悪を増加せし所以か、抑も亦た世人が之に注意する一種の趣味を成長せし由縁か。二者の一、其の何れに歸元するに關せず、世道人情の爲めに痛憂すべきに至ては同もに一なり。

蓋し、人を殺すは悪の最も大いなるもの也。然れども、此の大悪を聞くことを樂しみ、之によりて幾分の悲的快感を覺えんとするに至りては、慘逆も亦た極まれりと云ふべし　古來罪悪の増加せしことの歎ずべきものなかりしにはあらず、之ある

をもて一種の興味となすに及んでは、殆んど治安の末路に瀕することを證す。識者の憂患は實に此時にある也。

凡そ抱負ある教育者の自から任ずるは、單に學校内の責のみを以てすることなし。男子教育者は先づ世間の男子の不行跡をもて自己の責に歸すると同に、女子教育に任ずるものも亦た世上の不徳なる女の始末をもて重大なる責任と感ずべし。蓋し自から責むることを知れる教育者に於ては、一日も倚ほ此邊に安慰あることなけん、況んや其の惡しきと近來の如くなるに於てをや。

學校の教育は、社會の教育の一部分なるのみ、かの全般の感化や滔々として更に清むことなく、滔々として毫も減ることなし、此時に當りて、獨り學校先生の得意をもて、恬として、恥ぢざるは、何の愚ぞや。愚は倘ほ恕すべし、其の厚顔を如何せん。

子やなかんあまり雲雀のたかあがり　　杉風

教育界時評

◎教育上の飢饉　　生

帝國大學は、五個の高等學校卒業生を悉く受け入るゝの餘裕なく、高等學校はまた尋常中學卒業生を網羅するの力なく、尋常中學はまた高等小學校卒業生をして擧りて入門せしむること能はず。現に日本新聞が二三例を擧げたるを見るに、熊本にては、近時二三の分校中學を新設せし迄は、尋常中學は單に一の濟々黌ありしのみ。今年四月度の如きは、同縣下に五百名の高等小學卒業生を出せしかども、濟々黌は其半數をも入學せしむること能はずして、無試驗入學をなし得べき彼等入學志願者に撰拔試驗を施して、僅に二百名を採用したり。また福岡尋常中學は百五十名の新入學生を募集せしに、之に應ずるもの五百名、迚も全數を入學せしめ難きより、柳川、久留米の兩中學に超過員の入學採用を懸けあひしも兩校とも滿員にて謝絶したりといふ。また仙臺には一の尋常中學あるのみにして之に入學せんとする高等小學校卒業生は卒業後一年間、猶豫せずんば、迚も入學し難しとの事なりとか以上の狀況は、たゞに此數例に止まらずして、恐くは全國の通況なるべし。然りとすれば彼大多數の入學なし能はざる高等小學卒業生は、之を如何に處すべきや、入學試驗に及第したるものゝみが、必ずしも將來有望の學生のみにあらず。落第生の中に却て屢々有爲多望のものあり。加之僅に高等小學を卒業したる位にて學生の價値を判すべからずして、各皆進んで之を教育したる後にはじめて玉石を分つべきのみか、彼等はいづれも皆更に高等の教育を熱望しつゝあるに當りて、學制の規模の狹隘なるが爲めに、切角の志望を挫折せしめんとす、苛虐何者かこれに過ぎん、今や教育の飢饉時なりといふべきか。當局者宜しく爰に救治の策を講ぜずんばあらず。救治の策他なし、盛んに尋常中學を起し、なほ數多の私立學校を補助改善せしむるの外なきなり。

多數の尋常中學卒業生を受け入るゝが爲めには、高等學校の增設を見ざるべからず、高等學校の增加は從つて、大學の增設を必要とす。今日すら一の大學にては、到底不充分なるを以て、京都大學將に新設せられんとし、なほ政府は九州大學を

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

福岡に起さんとするの議ありとか傳ふるあるに至る。

加ふるに一縣下一の高等女學校を有せざるべからずとは、これ近時の輿論にして女子教育の爲頗る贊同すべく、否な、男子の爲めに、一縣下二三の尋常中學を有するからには、女子の爲めにも、必ずや一縣下に一二の高等女學校のあるべきの理にして、遠からずして、この喜ぶべき狀態を現出するに至るや自然の數なり。如斯にして教育制度の擴張され、高等教育、普通教育、男子教育、女子教育共に隆々の進步をなさんことは、國家の爲め頗る慶賀すべき事なりと雖も、顧みて、この教育の普及擴張の爲めには、教育費の增額を來たすと共に、自然地方稅國稅の增加を生じて、さらでだに多稅の負擔に堪へざるのみか、一方には物價の騰貴と、生活の程度の高擧とに苦しめたる人民は、更に教育の痛苦を訴へんとす、これ甚だ思ふべきとならずや。

今や教育組織の欠乏は學生をして飢饉時に在るの思ひをなさしめ、俄に之を救拯せんとせば、人民の疾苦を如何せん、教育進步して、要需、供給に伴はず、こゝにまたマルサス法の一實例を現じつゝあるなり。

◎万國學生大會

曩に万國青年會委員モット氏の來朝ありし際、帝國大學及私立學校の基督教徒學生は万國學生大會に加入して、これが爲めに、明治學院長井深梶之助氏、同會日本委員として、伊藤、ノースフヒールドに於て開かるべき、同大會に出席の爲、既に出發せられたり。同氏は渡來したる日本人中、最も好名聲を博し、且つ其英語に練達せると、未だ一度ひも海外の土を踏まずして、其會話に一點の誤謬なしとの評ありし程なれば、其行と、其辯とを以て、日本學生の面目を海外に發揮せんと多望の至りに堪へず。この同盟大會の影響する處、我國の青年社會の名譽を、國家の名聲を万邦に成す所以、派遣委員の負擔も亦大なりといふべし。又更に望むらくは、明年に於ては、多望なる一二の青年を彼會に派遣して諸邦の青年有爲の士一室に握手談論して以て、我邦少壯青年の名を成さんとを。

◎日本主義

木村鷹太郎氏主唱して、新神道なるものを組織して、之を國教となし、憲法制定の信教の自由を蔑視して、この新宗教を以て國教となさんとするの說あり、元亘湯本、井上の諸氏之を贊して、大日本協會なるものを起し、日本主義なる一雜誌を發刊して、同新神道の主義を主張せんとす。其主義の綱領に曰く、

目的

一 日本建國の精神を發揮す

綱目

一 國祖を崇拜す
一 光明を旨とす
一 生々を尙ぶ
一 精神の圓滿なる發達を期す
一 淸淨潔白を期す
一 社會的生活を重んず
一 國民的團結を重んず
一 武を尙ぶ
一 世界の平和を期す
一 人類的情懷の發達を期す

◎故西村正三郎氏を懷ふ

教育論壇に筆を執りて、教育界を評論教導するの人は、宜しく卓然自ら堅く持する處ありて、堂々國士の體度を有すべし。然るに近來の教育雜誌を見るに、幼稚なる書生論をなして、暗々當局者に喰つてかゝり、他を罵らずんば、偏狹固陋なる國家論を唱へて得々の風ありて、今や教育雜誌の見るに足るものなきに至る。是に於て乎、吾人は故西村正三郎が、濶達の見識を有して、持する處重きものありしを追想して、頗る其亡きを嘆す。

◎教育界の腐敗

教育界の腐敗を唱ふるの聲、近來いよ〱繁くなり行き、醜狀また重なり至る。若し夫れ、委細に其內情を探穿して、一々其醜狀を暴露せば、蓋し、鼻を蔽ふて逃走せざるべからざらんとす。忌憚なき万朝報の筆は、此醜狀鼻を蔽ふべきものを一々暴落して、江湖に示し、所謂不正教員を驅除せんとす。記事いまだ其當に入らずと雖も、既に吾人をして醜惡に堪へざらしむ。朝報の記する處、果して誇張過ぎずとせば、教育界の腐敗もまた今更の如くに驚くへく、また其筆に上りし

面々こそ、氣の毒にも哀れなれ。たゞに彼等のみにしも止まらざるべきに。

◎教育界の紛亂事件

文相の不人望、次官の撰定、普通局長の就任、教員の反抗、教科書の値上げ、第二高等學校の教授八名の非職、紛亂また紛亂、非難また非難。教育雜誌の暴言、今や當局者は四方楚歌の聲を以てす。この紛亂は、當局の不能なるにもよるべけれども、一にはまた野心勃々たる連中の魂膽より出でたるものなきにしもあらずと言ふものあり。

◎教員の反抗

教員に不平なる生徒の反抗と、校長に不平なる教員の反抗とは、學校の騷動を起し、當局者に不平なる教員は反抗して、教育界を騷がす。監する處彼も此も似たり寄つたり、今の教員は生徒の反抗を責むるの權能なきが如し。

◎野心家

悪むべく卑しむべきは、彼野心家なり。狠心にして羊皮を被り、殊勝らしき外面を裝ふて、其内心、威望權勢を得んが爲めに、他を教唆煽動して、紛擾混亂を生ぜしめ、其隙に乘じて、自ら甘き汁を吸はんとするの擧動をなす。この流の野心家、現時の教育界に多し。

◎諸學校教員の狀態

左は『日本人』最近刊號に見えたるものなり。此に轉載す。學校の事情を統計的に調査すれば、種々の現象を見るへし、今試に其二三を擧げん。

年齢を三十年以下、滿三十年以上四十年未滿、滿四十年以上五十年未滿、滿五十年以上に區分すれば、小學校教員の過半は三十年以下に在り。而して少壯者は年々其數を減じつつあるもの〻如く、即ち其下分比例を擧ぐれば左の如し。

	二十五年	二十六年	二十七年
三十年以下	六一	五一	五四
滿三十年以上四十年未滿	二七	二九	三二
滿四十年以上五十年未滿	八	九	一〇
滿五十年以上	二	二	二

小學校と最も相近きは尋常師範學校なり、教員の過半は三十年以下にありて、小學校と些少の差あるのみ。但し年齢の老ゆるは、一層緩漫の度に於てす、左の如し。

	二十五年	二十六年	二十七年
三十年以下	五四	五三	五〇
滿三十年以上四十年未滿	三九	三七	三八
滿四十年以上五十年未滿	五	七	九
滿五十年以上	一	一	一

尋常中學教員は此に比すれば、概して年の長ぜる傾あり。

	二十五年	二十六年	二十七年
三十年以下	四〇	三八	三八
滿三十年以下四十年未滿	四四	四四	四二
滿四十年以上五十年未滿	九	一三	一四
滿五十年以上	四	四	四

又在職年數を一年未滿、滿一年以上五年未滿、滿五年以上十一年未滿、滿十一年以上十五年未滿に區別すれば、小學校と尋常師範學校とは極めて相類し、一年未滿は割合に少し。

小學校教員在職年數

	二十五年	二十六年	二十七年
一年未滿	一五	一一	一一
滿一年以上五年未滿	三五	四〇	三八
滿五年以上十一年未滿	三六	三五	三四
滿十一年以上十五年未滿	一三	一二	一五

尋常師範教員在職年數

	二十五年	二十六年	二十七年
一年未滿	一五	二六	一三
滿一年以上五年未滿	四二	三八	四八
滿五年以上十一年未滿	三四	三〇	三一
滿十一年以上十六年未滿	六	[illegible]	[illegible]

満一年以上五年未満	四二	三八	四八
満五年以上十一年未満	三四	三〇	三一
満十一年以上十六年未満	六、	五	七

尋常中學教員在職年數

	二十五年	二十六年	二十七年
一年未満	二三	三五	二〇
満一年以上五年未満	二六	三〇	四八
満五年以上十一年未満	三九	二五	二二
満十一年以上十五年未満	一	八	八

更に尋常師範學校長と尋常中學校長とを較ぶれば、師範學校長にて在職一年に足らざるもの者殆ど之れなく、満五年以上十一年未満の者最も多きに居る。而して中學校長は頗る之に反するもの丶如し。

尋常師範學校長在職年數

	二十五年	二十六年	二十七年
一年未満	二	〇	二
満一年以上五年未満	二一	二四	一〇
満五年以上十一年未満	六四	五六	五四
満十一年以上十五年未満	一二	一九	三四

尋常中學校長在職年數

	二十五年	二十六年	二十七年
一年未満	一六	二四	一二
満一年以上五年未満	三五	二四	三七
満五年以上十一年未満	三三	三八	三三
満十一年以上十五年未満	一三	一二	一六

此等の統計を以てして、亦以て學校及び教員の状態を測度するを得べきなり。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

○寄詠　　安中　須藤たみ子

女學雜誌の月に盛林堂より遞配あるをまつ事一日千秋の如し

乙女子が學びの道の手曳ともつゑとも成らん書はこのふみ

雜録

寫眞

花影子

おぼろ月夜に　手をとりて　車がへしの　花かげに
千とせの春を　ちぎりしも　空しき夢と　なりにけり。
秋の月さへ　曇なき　まことを寫す　鏡ぞと
こゝろ樂しく　ながめしも　思のたねと　なりにけり。
小女ごゝろは　糸柳の　よわきものとは　知りつれど
むすべば消ゆる　露のまに　あだし風にも　なびくとは。
などと知りつゝ　散りやすき　をとめ心の　花にしや
つきせぬ春を　たのみけむ　くやしきものは　我身なり。
とりかはしたる　うつしゑも　かへすためとて　手に取れば
ちかひし時の　まゝにして　今もかはらぬ　なつかしさ。
思をうらに　しるさむと　とる筆にぶる　腕のうち
あはれと君よ　一しづく　涙をそゝぎ　たまひてよ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

昨日はさくら　今日は桃、　うつるに　早き　世の中に
かはらぬ春の　君が上　あれよと　我は　祈るのみ。
いろ香うすれば　さる蝶の　うかれ心を　うらむとき
君よ知りてよ　いづこにか　情のつゆの　殘れりと。

こがねの指輪

泡鳴子

「たらちねの　母は」と　問へば、
めの子　は　あとを　ふり向きて、
「この家　の　わが屋　の　うちに
居まし玉ふ」と　答へけり。
傾ける　賤　が　軒端　に、
夕げ　ものす　と　焚き立つる
烟　より、　なほ　定めなき
「ちゝの實　の　父　は」と　問へば、
あまつ御空　を　指さして、
「かしこなる　清き　御園　に
旅し行けり」と　答へつゝ。
いと細き　くすり指　より、
こがね　の　指輪　ぬき取りつ。

「その折　に　之を　賜ひて、
あとより　來よ』と　のたまひぬ。
「さればこそ、母　と　もろ共、
逢ふべき　日　をば　待つなれ」と、
もの語る　その者　よりも、
もれ聽く　人　の　こゝろ　かな。
げに　あはれ、牧師　の　やもめ、
おのが　ひとり　を　愼みて、
たまちはふ　神　を　あがむる
讚美　の　歌　も　怠らず。
日曜　の　夕べ　に　つどふ
祈の家　を　歸へるさ　に、
ともなへる　その子　の　指　の
かゞやく　見ゆる　常なりき。

話の種

長汀子

◎古への書家は、嵯峨帝、弘法大師、橘逸勢を三筆と稱し、小野道風、參議佐理、大納言行成を三蹟といひ、また聖賢蹟とて弘法、道風、菅家をいへり。流に、世尊寺（行成風）上代流（貫之風）定家流、尊圓流、青蓮院流、近衞流（關白信

基風）光悦風、瀧本流、堺流（牡丹花肖柏風）、志津摩流、通村流、二樂流、烏養流、宗祇流、宗鑑流、傳内流、大橋流、本目流、玉置流、悦山流等最も名あり、其他能筆、名流いと多し。

◎佛前に御茶湯とて、毎朝茶の入花を捧ぐ。されど茶と湯とは元來二物にして、湯とは密湯とて米粉、砂糖、寒薑等の物を湯に浮めて飲するものなり。禪家專ら之を用ふ。

◎日本橋西河岸にて榮太樓と云へば、都下屈指の菓子舖にして、數十人を使役して製菓に從はしめ毎日店頭顧客群をなし前後を爭ひ雜沓を極む。一日の賣上高數千百圓に上ると云ふ。而して其最初に溯りて此の店の起りを尋ぬれば、其主人細田安兵衛と云へるは維新前堀江町萬橋の傍なる小き菓子店に丁稚となり、專ら菓子の製造を覺えんものと心がけ居たりしが、漸々にして一通りを習ひ得たれば、年期の明くるとともに、一つの店を開かんとするも資本乏しくして思ふ如くにならされば、是非なく日本橋の魚市をあてこみて、みすぼらしき一の屋臺店を出し、金鍔を燒きて賣出せしが、價廉にて味よしとの評判をとり、次第に繁昌し終に現時の場所に開

店せり、後日迄も昔を忘れぬためとて、彼の金鍔ばかりは同じやうに賣りけるが今は止めたり。上野山下、雁鍋と云ふ大いなる料理店も昔は其主人が、露店に雁の燒鳥を出し一本幾許とゝなへて串にさして賣りたりしが、運よくも、非常に繁昌して遂に今の樣になりしなりと。

◎三浦將軍の近時談に、近來の人、百年の計をなすものなし。之をなすものたゞ住友家ありと。其計や聞かまほし。

◎本多佐渡守正信は德川創業時代の第一の智慧者として、同家三百年治安の大方針を建策したる名臣なり。然るにこの謀議の臣が何時家康と天下を定むるの相談をなせしや、人には一向に曉られず、石川丈山の物語にも、

正信大御所の仰せられし所我が心に得ざる時はうち睡りてのみ居て申す旨もなし又めたもふ所よしと思へる時はほめ參らす事かぎりなし我れ大御所につかへ奉りしと年多き内に正信と事をはからせ玉ふと見えし事わづかに二度ならでは見ず

といへり。此處ぞ智慧者の智慧者たる處なるべし。

◎魯帝ペスタロチーを引見して教育を問たまひし時ペスタロ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

チーは此處ぞ魯國に國民教育を起すべきの好機ぞと思ひしものから、熱心己を忘れて諄々と説き出し、談の進む毎に吾れ不知膝を進め、遂に魯帝の身に觸るゝばかりとなりしかば、帝ソト身をかはしたるに、ペスタロチー果ては帝の胸倉を取りて話しかけしが、俄に心付きて其無禮を謝せしに魯帝は却て其の熱心を賞せられしとぞ。

◎同じ人かつて魯帝より勳章を受けたることあり、大に喜びて、最初の一日は樣々にいぢり廻はして、恰も小兒が新に獲たる玩具を喜ぶ如くなりしが、翌日には全く之を打捨てゝ顧みず、門弟等も以後二度と再度其勳章を見たることなかりしとぞ。

◎昔嵐みんしといへる役者、和田合戰の狂言に、板額の門破りをつとめしに、其親嵐小六之を見物して、打出しの後、今日の仕打見苦しとて叱りしかば、翌日更に心を用ひ勤めしも、なほ小六は大に叱りたれば、其夜は寢もやらずに工夫して、第三日目の演伎にて、やうやく賞美せられしが、其の工夫したる處はたゞ、女子の門破り故、長刀をかひ込、其手にて上着の裾をつま取るやうに持ち添へて、片手は門を押へたる一點にありしよし。

◎天正年間酒田の城主東禪寺右馬頭は、運は天に在り、鎧は胸に在りとて、幾度の合戰にもあかね紬の羽織のみうちきて、何時も人の眞先にかけ、また殿をなしたりしも、曾てかすり手一つ負ひしことなかりしといふ。

◎義太夫の名人井上播磨掾門人清水の理兵衞等に語りて曰く、淨るりは、秋は頗る花美なるを語れ、人の陰氣を引立んが爲なり、又春は引〆りて和かなる段物をよしとす、春は人の氣浮立つ時なれば引〆りたるものにあらねば、客の情推し移らざればなり、淨るり五段の變化作用も亦この理に外ならず、故に序より五段目迄人形の替る都度〳〵その氣をかへ、同じ人形にても心持をかへ語らざるべからず、各方の淨るりは節斗りに氣を付け肝心の文句は無用となる、これ淨るりを語るにあらずして節を語ると云ふものなり、節の如きは三ツゆる所を二ツにても四ツにてもその時の拍子次第にて宜きものなれば、兎角文句に氣を付け一字の假名さへ遊ばぬ樣語るべし、然れども節のゆり方迄違はぬ程、淨るり修行あらば、自然と文句も働くものなりと（義太夫物語）

時文

◎社會百方面　　乾坤一布衣著　民友社刊行

『最暗黒の東京』の著者松原乾坤一布衣氏は、下流社會の事情に精通するを以て稱せられ、彼書の如きは、既に英譯せられて出版せられたる程なり。氏の新著『社會百方面』は、これまで國民新聞紙上等に見えたるものを抜萃摘錄して、其精細の度も亦、前著に及かずと雖も、なほ何て東都下層社會の各方面を觀察するに足る。附錄醜窟の中面は、ことさらに書簡文躰を用ゐて、頗る其の足らぬ心地せらるゝと雖も、醜窟の一斑を窺ふに便りよし

◎藤田東湖　　川崎紫山著　春陽堂發行

南洲をして『天下眞に恐るべきものたゞ一の東湖のみ』と嘆ぜしめたる、かの維新革命史中の一偉傑たる水藩の藤田東湖の如きは、之を傳ふるに於て、多趣多味、且つや彼の傳記は、維新革命運動の一根據地たる水戸藩の形勢を窺ふに足るへきものなり。然るにこれまで、彼を傳へて詳細なるを得たるもの殆ど之あるとなし、爰に川崎紫山氏は、數年間東湖傳の材料を蒐集して、今や菊版三百七十餘頁の一大册子となして之を出版せり。東湖の生ひ立ちより、其時世、其勉學其奉仕、水藩の尊王攘夷、小楠、象山、南洲、容堂等との關係、其家庭、教訓、性行等、記述頗る詳細なるを得、引用また乏しからず、蓋し當時最好の東湖傳といふべきか。

◎馬場辰猪　　安永悟郎著　東京堂發行

馬場辰猪は明治年代の一俊髦なり、有爲鬱勃の志を抱いて、事を天下になすあらんとして、四十未だ家を成さず、東西落魄、遂に万里異域の鬼となれり、其事や、頗る痛むべく、其生前を追ふて、欣慕すべきもの多し。辰猪逝いて、正に八年、今に當りて、之を傳するもの安永悟郎氏あり。馬場氏の憂憤慷慨の議論行爲を顧りみ、風澤翁をして氣品の高潔を嘆ぜしめたる其人品の一斑を窺知するに足るの好著なり。

◎新著月刊第二　　東華堂發行

『咖啡店』天外の筆は犀利奇警、皮肉を穿つに長ずとか。いつか國民の友に見えたる區役所の御役人といひ、この咖啡店の主人といひ、作者の筆は、其人物を描寫せんが爲めに、微を穿ち、細に入らんとを勉め、而して其記述の事は、滑稽皮肉的なるより、往々にして、落語家の口調に陷らんとす。これ殊更に奇警皮肉なるを得んするが爲の弊か。

『後面』伊原青々園の作なり。初吾人はじめて此人の作に接す。筆の跡流麗見るべきも、未だ大にいふに足らず。

『新枳殻寺』新著月刊への投稿者たる小説中の第一等なるものといふ。

『あにき』柳浪の作、世評は此人近頃の傑作なりといふ。眷なる又吉、悌なる富五郎、貞なる御新、寫し得て妙。全篇の趣搆よりいへば、殊更に工みて、自然に近からず、其人物と其行爲とが、ともなはず、且つ柳浪は得意の變物を描き出したるなんどよりいへば、頗る非難すべき點多かれども、其筆よりいひ、其文よりいへば、圓熟輕妙、悲慘の狀よく寫し得たりといふべし。

一葉亭及び正直正太夫兩氏の作家苦心談また讀むべし。ただし正直正太夫の多辯多説はなんだか、殊更に苦々しく、嫌々しき事をいつて、當つて見るといふ衒ひの點鈎からざるに非らずやと思はる。

◎新小說　第二年第六卷　　春陽堂發行

『薄烟』中村春雨の作にして、まづ可もなく不可もなく、無難の作にして、哀れなる筋、悲しき筋も、中々によく出來たりといふより外なし。

『凱旋祭』鏡花近來此躰のいや味多き文字を作る厭ふべし。

『島守』水蔭のスケッチ、面白く讀まれたり。

『ひうち石』植木かしはの作、言ふに足る程のものにてなし。

露伴の譚藪例によりて面白けれども、何だか露伴氏近來活氣に乏しきにてはなきにやと思はる、乞ふ自愛あれ。

◎日の出島　(蓬萊の卷)　村井弦齋著　春陽堂發行

弦齋此書に序して、文を著して人を益する事無くんば、是れ閑文字のみ、などゝ、またもやの太言、厭味なり。『日の出島』これ弦齋が畢生の大作なりとかにて、今度出てたるものは、其一部蓬萊の卷なり。既に昨年の夏頃報知新聞に見えたるもの、之を讀むに、變化は多く、人間は多く、舞臺は廣く、永日の友として、婦女子の坐右にあるには適すべし。弦齋に向つて素より人物を活寫するの筆あるを望むべきにはあられども、此小說中に見えたる人間の如きは、一人として人間らしきものゝなきも亦妙なり。弦齋の世話物はいつにても此弊あり。此作家について

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は其歷史風の物語は、やゝ見るべきも、其世話物に至りて、たゞ人をして讀餘噴飯を催さしむる處に、人の愛好を惹くものと許すべし。

◎女界文壇雑爼

五月上半期

◎女子教育につきて(須子信之演說)　奥羽六縣北海道教育大會席上
◎女子教育の普及改良を望む(野口保興演說)　同　上
◎教育をして効果あらしめんには先づ賢母を作らざるべからず(寺田勇吉演說)　同　上
◎男子と婦人の集會(小宅千次郎演說)　同　上
◎幼稚園教育者に告ぐ(北島亘)　教育時論第四百三十五號
◎尊貴なる二婦人　萬朝報　五月十八日
◎女子と國文との關係(今泉定介)　大日本婦人教會雑誌第九十三號
◎女子教育の結果　女鑑第百三十二號
◎戰後女子教育の急務(續)井原恒也　私立兵庫縣教育會雑誌第九三號

片々

◎應問　小石川本田さく子よりの御質問ありたる櫻井鷗村の本名は、彦一郎と申し、本社員に有之候。また後藤宙外氏は本名を寅之助と申されたるよし、其生國は秋田のよしに候。佐藤迷羊氏とは、知名の作家の變名にては有之間敷、新顔の作家と見受けられ候、以上御應申上候。

◎新聞雑誌の　近來著るしく女子教育に注意し來りたるは、これ見るべきの一現象にして、時世の然らしむる處ならずんばあらず。この現象はたゞ地方に府下よりも眞の地方に多く、而も地方なるは、其一地方の女子に就而いふが故に、頗る參考とすべし。今其例として茲に長野信濃新聞、及び廣島藝備日々新聞の記述する處を擧ぐべし。

●長野高等女學校と看護科　病人に對して醫藥の必要なることは論ふ迄もなしと雖も看護人も亦なかるべからず、否啻に看護人の無かるべからざるのみならず場合と時に依りては醫藥より寧ろ看護人の方必要なることあり、而して看護には重に一家の內を守るべき婦女子の當るを以て習慣となすが故に婦女子たるものは看護上の心得無かるべからず、ヨシ完全なる看護法を知らざる迄も少なくとも小兒の病氣若しくは父母の病氣に際して醫士に依賴する迄の間其れ相當の手當を施し得る位の心得なければ進歩せる今日に在ては不都合なりとせず併し之を教授せんとするも小學校にては女生徒の年齢尚少くして妙ならず、高等小學校卒業後の女子を故に集めて之を教授せんとすることも亦難事なるが長野高等女學校の如きは生徒の年齢に於て最も適當の時期なるべく、之を一つの學科として加へんには文部省の許可を經ざるを得ざるを以て多少手續を要するも之を家事の一部として教授せんには敢て妨なしと云へば簡易なる看護科を加ふることゝなしては如何、聞くが如きは樅藤知事も女子教育の普及せざるべからざるを知り、之が普及說を持せる由にて女子のみより組織せる小學校以上のものゝ設立を希望し長野高等女學校の設けあるを聞くや着任早々參觀し其組織の宜しきに感じたる趣なれば看護科を加へて一層完全なるものと爲しては如何と云ふものなり。(信濃新聞)

●女學校生徒の取締に就て　廣島高等女學校生徒中には自宅より通學するものあり或は校內に寄宿せるものあり或は親屬の家に寄留し居るものあり此內最も多數なるは自宅より通學するものなり次は親屬の家に寄留するものなり而して校內に寄宿せるものは僅々十七名に過ぎず此寄宿生徒に學校に於て充分取締を施すと雖も他の二者に至りてはその歸宅後の取締を學校に於てするは甚だ困難なるを以て之は家庭に於て嚴重なる取締をなさゝるべからず然るに家庭の取締は往々放逸に流れ易きを以て學校に於ては昇降簿なるものを作り之に毎日出宅昇降歸宅の際は共に其時刻を記入し而して其出宅歸宅時刻は家庭に於て記入し昇校降校時刻は學校に於て認め之に捺印を受けしめ毎日携帶登校せしむ。この昇降簿は毎月之を保存し置き學校より請求あるときは何時と雖も直に差出さしむ又生徒にして相當の理由なく缺席遲刻早引なしたるときは家庭に於て昇降簿に特記せしむる等の規則を設け實行しつゝあれども此の規則は家庭に於て往々破られ所謂有名無實に流るゝことありと聞く這は學校の罪にあらずして家庭の罪といふべし。如今女學生の不品行頻々として人耳に觸るゝに際し家庭の取締を嚴ならしめずんば終に過ちなきを保せず(藝備日々新聞)

外に山梨日々新聞に『山梨共立女學校を訪ふ』の記事なんど見ゆ。而して如斯く新聞雑誌の女子教育を云々するとは、今後いよ〳〵ます〳〵盛んとなるべし、且又此際、三面種に女學生の醜聞の載せらるゝも必ずや多くなるべし。

◉日本新聞　日本女子大學校の設立を許して後いへり、曰く我國刻下の急須より云はゞ、一の大學女を得んよりは、寧ろ十人の俊才女こそ得まほしく、十人の俊才女を得んよりは、寧ろ百人の常識女を得まほしきなれ。約めて言はゞ能く家庭の內政的秩序を整へ、且つ學校教育に相應すべき家庭教育を維保し得る婦女こそ渴せるなれば、苟も今日大學の創設者たらん人士は、最も深重なる探考を以てせられたきものにこそと。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學級を異にするか、若くは單級教授方法によりて、女子教育の目的に適合せる教授を與ふべきと、(三)教科書に對しては、大に改正を加ふべきと、(四)裁縫教授方法には、大に改良を加ふべきと、(五)小學卒業者を待つべき女子高等學校、及女子職業學校の設けは可成多からしむる事。

◎今や女子教育の普及法、女子就學の增加策等は、少しく教育をいふもの丶唱へざるなく、斯道の盛運隆々として來る。然れども一方より觀ずれば、此盛運は却て、女子教育の眞相には損失を招くとなきか。或は女子教育を盛んならしめんが故に、女子に要求するに速成にして多能多藝ならんとを以てするを今日の如きもの、教育上甚だ喜ぶべきの現象なり。

◎船頭　多くして舟山に登り、料理番多くして、ソップ腐敗すとは、是れ今後の女子教育を刺譏するものならずんば幸なり。

◎佛國　巴里にて皮膚を美麗ならしめんが爲めにセルヒチを飲用するもの其數五万人の多きに達し、其中女子は三万人以上を占むと。

◎指を賣る　とはこれ米國紐育に於ける近事の奇聞、時事新報傳へて曰く、或る外科醫バートン夫人と稱するもの丶指の療治を依賴されたる所、其指到底治癒の望なきに依り、切斷して健全なる指と繼ぎ替へんことを患者に勸告し、普く廣告して指の賣手を求めたるに、天下は大なり人間は多し、間もなく一人の女我こそ其指を賣り參らすべけれと、醫師の玄關に現はれ出でたり。此女名をグレース、ヂンスモーア孃と呼ぶ歌妓志願なるが、幼にして父を失ひ、家貧にして其望を果たす能はず、是に於て其指を一千弗に賣却し、其得たる金錢を携へて、ボメトンに赴き音樂學校に入らんとするものなりと云ふ。

◎小川將軍夫人　勝手口に白の腿引を穿ちて、下女と共に勞働し、出入の肴屋をして迷惑がらしむ。貞富貴に在りて、この業をなす稱すべし。

◎支那上海　の軍營の一兵勇、近來一子を營中に生む。衆皆其怪に驚く。されど其實を尋ぬるにこれぞこれ、數年前其良人此營中に兵勇となりたるより、鴛鴦の羽を比ぶると能はざるを嘆きて、自ら亦男裝して其許に來り伉儷の情契、いと細かなりしより、此一大怪事を惹起せしものとぞ。蓋し支那の兵營にして始めて此奇聞あり得べく、而して此女子はまたこれ貞婦烈女傳中の一人か。

◎懸賞新案　兇賊あり去る廿七日夜東京御茶の水橋畔に一婦人を虐殺して慘狀を極む。而して犯罪者蹤跡を失して、警吏百方蹤跡するも獲ず。爰に時事新報金時計一個を懸けて、彼暴人を探偵捕獲したる警吏を賞せんと廣告す。これや我邦には未曾有の懸賞案。

時報

◎英照皇太后陛下御百日祭

英照皇太后陛下の御百日祭御執行につき、天皇　皇后兩陛下には去月十七日東京御發輦。京都へ行幸啓被成れたり。御百日祭は、同月廿日泉山御陵にて御執行あせられしと承はる。

◎故瓜生岩子女史

前號既に報じたるが如くに、福島瓜生會々頭故瓜生岩子女史は去月十九日病を以て、同會事務所に死す。其生前の履歷とて報知新聞の傳ふる處によるに、女史は文政十二年五月福島縣下耶麻郡喜多方町福島某の家に生れしが、幼より慈善の志篤く其十七歲瓜生氏に嫁し、三十四歲を以て寡婦となりしや、これより一身を慈善の事業に委ね、以後七年間に救濟せし孤兒三十人、之が爲めに一千餘圓を費して厭はず。貧者の兒を生みて養育すべき力なきものは、滿三ヶ年の其間一ヶ月金五十錢づゝと時服各一通りとを贈るなどの行ひありしより、人々女史を名ぐるに、「施しの婆樣」の稱を以てしたりといふ。維新の際には、會津地方兵亂の爲、民業荒廢、人民塗炭の苦を訴ふると甚しきを見、明治二年女史自ら率先し金五百圓を醵つて、一の學舍を起して子弟の教育に從事したり。また曾て鈴木某を聘して產婆研究所を起したるとあり。明治六年大塚某東京深川に救養會社と稱する孤兒救濟所を起したるを聞くや、上京之を視察して歸國するや、自ら亦孤兒教育院なるものを創設せり。爾來十四年此事業に精勵しつゝ、明治二十年に至り時の福島縣知事折田平內氏と計りて、信夫郡福島村に一の養育所を新設したり。明治二十二年より廿三年に至りて、福島縣下には希有の大洪水ありしかば、女史は自ら家財調度をも賣却して多くの窮民を賑はし、また飴粕を以て麵包を製造するとを發明して饑飢の民を救濟したり。二十四年東京養育院の聘する處となりて、幼兒世

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

該係長となりしが、間もなく之を辭して郷里に歸り、二十五年多くの貴顯夫人の贊助を得て、福島瓜生會を起し、貧民救護の業に従事するに至れり。二十六年濃美地方震災に際しては、會員伊藤某女を同地に派遣して、救助に盡力せしめ、また慘死者の靈を弔慰せしめたり。此類の善行いつしかに九重に達し、皇后陛下より親しく長しき御言葉を賜はりしことさへありしとぞ。廿五年、廿七年の前後東京府知事赤十字社等より褒賞褒狀等を受け、廿九年五月廿一日には、賞勳局より藍綬褒章を下賜せられたり。然るに女史は本年一月中旬頃より、心臟病に罹り種々治療を加へたれども醫藥其効なく、いよ〳〵危篤に赴きけるよし聞こし召れて、四月十七日　皇后陛下より御菓子折を見舞として下賜せられたりとぞ。かくて二日を隔て十九日終に死去す行年六十有九といふ。

◎英國派遣大使　來る六月二十日を以て英國女皇ヴィクトリア陛下の即位六十年祝會執行につき、大使として有栖川威仁親王、該國へ差遣はさる。皇室よりは英皇への御祝賀贈物夫々ありといふ。

◎華族女學校の改善　同校は是迄士族平民の女子をも少數を限りて入學を許可し來りしが、今般長きあたりよりの令旨により、更に汎く一般の女子にも入學を許可することゝなるべしと新聞紙は傳ふ。

◎秋田縣師範學校女子部卒業生　卒業式は去る三月二十五日執行卒業生は小原みよの、椎名のし、森口さよ、東海林えつ、目賀多たけ、青柳さし、川井なほ、泉つれ、平澤くら、佐々さし、安井はな、根田ゆき、皆川きん、眞崎さき、横山よれの十五名。

◎同志社女學校二十年期紀念式　は去月廿一日を以て擧行したるよし

◎久留米耕織工塲　山口縣人拂村三九郎氏は、此地方實業の不振にして、婦女子の正業なくして遊び廻るもの多きを憂へて一大職工塲を起さんとて、二ヶ年前より博多久留米地方に行き、種々視察し、愈此時機の熟したるにりて、久留米より織子糸操染子等を聘し現今工女募集中との事なり。

◎婦人矯風會々頭　先月二日三日の兩日、神田青年會塲に於て開始せられたる同大會に於ては、會頭の改撰を行ひたるに、矢島楫子再撰せられ、なほ他に數名の補助員を擧げて、會頭を補修することゝなしたり。

◎三重縣基督教徒婦人大會　四月十三日より三日間津市丸の内會堂内に於て開

◎子守教育　愛媛縣西宇和郡にては、貧困にして子守をなす爲め、就學すると能はざるものゝ、年齡九歳以上にして町村長の證明あるときは幼兒を携へて小學校に出校するを許し特別の取扱をなすといふ。

◎女禮式試驗　四月十一日土佐國土佐郡小高坂村勝賀瀨女禮傳習所に於て小笠原流女禮式試驗を執行したり。

◎盲啞學校の　四月十七日第九回卒業式を擧行したる際、啞女生須賀ふみ子(十六歳)の文部大臣の祝辭に答へて

私入學以來數年の久しき校長始め先生方の御懇ろなる御教育を頂きお蔭を以て今日文部大臣閣下御來臨の席に於て卒業の證書を授けられ私の嬉しさは素より母の悦びは限りなきことに存じます私は三歳の時六歳の姉と共に父に別れ兩人僅かに母の手にて養はれましたが不幸にして姉妹共に啞となり世に厄介者と侮らるゝ筈でありますのを大御代の深き惠みと先生方の御惠とに依り先きには姉常子卒業となり今日私が卒業を得て尋常の人と交際ふことの出來る樣になりました此の有難さを思ひますれば思はず涙が溢れます玆に謹て御禮申上ます

といひしには臨席の文相はじめ坐客の袖には涙のつゝみかねしがありしとぞ。

◎女子高等師範學校保姆科生徒募集

女子高等師範學校に於て、今般保姆練習科生徒二十人を募集するにつき、志望者は來る六月二十日限り、同校に願出づへしとのとなり。而して入學志願者の資格は、修業年限六箇年の高等女學校卒業若くは之と同等以上の教育を受けたる者にして年齡十七年以上三十年未滿の者、入學試驗は七月一日より全三日までにして、試驗科目は躰格、國語、算術、歷史、理科、音樂圖畵なり。但修業年限六ヶ年の公立高等女學校を卒業せる者、及尋常師範學校第二學年の課程を修了せる者は、躰格、圖畵、音樂の外試驗を行はざる由なり。且又生徒の學資は自辨にて通學なるも、授業料を徵せず。書籍器械の如きは、成るべく同校に於て貸與することとなり。

◎英國婦人の義勇　昨今破裂したる希土戰爭に際し、負傷者救護の爲め英國のオルミストン、チヤント夫人及び六人の看護婦は四月八日クリートへ向ひて出發せり。其費用はヘンリー、ソーマーセット夫人及びケース氏之を負擔せりといふ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治女學校義捐金領收廣告

第五回（慈善水彩畫展覽會の際）

金廿五圓也　魯國公使館御中
金廿三圓也　西班牙公使館御中
金廿三圓也　英國公使館御中
金廿三圓也　佛蘭西公使館御中
金二十圓也　神中糸子殿
金二十圓也　皇后宮大夫殿
金十五圓也　清國公使館御中
金十二圓也　獨逸公使館御中
金十圓也　布哇公使館御中
金十圓也　和蘭公使館御中
金十圓也　池田謙三殿
金十圓也　井上藤太郎殿
金十圓也　三橋四郎殿
金十圓也　石川貞子殿
金十圓也　宮內省女官殿
金九圓也　倉西松二郎殿
金八圓三十錢也　朝鮮公使館御中
金八圓也　渡邊鐵二郎殿
金七圓也　鹿島イト子殿
金六圓九十錢也　毛利家御中
金六圓九十錢也　岩崎家御中
金六圓三十錢也　蜂須賀家御中
金六圓也　諫早西三郎殿
金五圓八十錢也　小笠原家御中
金五圓也　濱尾令夫人殿
金四圓也　白耳義公使館御中

金四圓也　末松謙澄殿
金四圓也　デビソン殿
金四圓也　松本マサ子殿
金三圓五十錢也　近衞家御中
金同　川上令夫人殿
金同　原家御中
金同　ハーツホルン孃殿
金同　瀧山タキ子殿
金同　島田タカ子殿
金同　島田マキ子殿
金同　木村ユウ子殿
金同　河村ハナ子殿
金三圓二十錢也　身川安宅殿
金三圓也　坂本ナツ子殿
金二圓九十錢也　鷹司家御中
金同　森家御中
金同　增田タキ子殿
金同　新海フミ子殿
金二圓六十錢也　河本カメ子殿
金同　植松藤治殿
金同　大塚楠緒殿
金二圓三十錢也　鵜飼ノブ子殿
金同　竹越竹代殿
金二圓三十錢也　玉生クニ子殿
金同　大日方キエ子殿
金同　青山忠允殿
金同　五島千代槌殿
金同　櫻井彥一郎殿
金同　南摩マキ子殿
金同　遠藤ハナ子殿

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

毎月十五日刊

社會雜誌

五月發第二號

論說

日本に於ける勞働問題　アドバタイザー新聞記者　高野房太郎

勞働者狀態改善策

社會學と社會改良との關係　マスター、チブアーツ　片山潛

鑛毒地視察所感　松村介石

雜纂

佐久間貞一氏を訪ふ

布哇移民拒絕事件○社會問題としての移民策○足尾鑛毒問題

人力車及び車夫　山形東根

全國車數累年比較◉縣別比較◉東京市部車數比較◉所有車挽と借車挽◉實歷談等

現存の經濟界に對する社會主義の批評　シェフレー

思潮

土地問題に關する時論（土地兼併の害土地國有論、小地主小作人）

人情風俗氣風の研究（土佐人、奧州人、九州人加州人等の氣風）

昨今の社會問題論（八派の思潮）

彙報

昨月來の同盟罷工及休業（十種の同盟罷工の成來を詳叙す）◉勞働者保護法◉社會學會記事◉減刑放免者再犯◉原胤昭氏保護事業成績◉橫濱居留地の支那人◉免囚保護會の新設一覽◉慈善救育彙報◉觀潮斷片（觀潮菴）

定價十錢　郵稅五厘、六冊前金郵稅共六十錢

麴町區下六番町六番地　社會雜誌社發賣所

◎「明治評論」の評

今や社會問題漸く起らんとするの兆あり、社會雜誌の出づる亦時機を得たりと云ふべし、且つ近來雜誌の發刊陸續絕えずと雖も、政治雜誌に非ずむば文學雜誌にして、人は既に其多きに耐へず、吾儕は此雜誌を以て實に萬綠叢中の一紅點と認め、大に其目的に同情を表するものなり、編輯者布川孫市氏は社會問題に熱心なりと云へば、其成功は疑あるべからず。

◎「教育時論」の評

社會雜誌は、社會學會の機關、人間の歷史的發達、一般社會の進化、開展の理法を究め親しく實際社會の生活を調査し、社會改良の方針を示さんことを期して出づ。近時社會問題漸く熾ならんとするに際し、此の種の雜誌世に出で、孰れも斯道に熱心なる人士の論說、意見及び社會問題に關する各種の事項を網羅す。吾等は此雜誌が健全なる發達をなして、愈々眞面目に各種の社會問題を解釋し、以て當初の目的を達するに至らんことを祈る。

◎「六合雜誌」の評

此れは現今我國にて社會學及社會問題の研究に專任する唯一の雜誌なり、編輯者は布川孫市氏、予輩は氏が此の學に向つて滿腔の同情を表す、載する所、時論、論說、雜纂、思潮、彙報等の諸欄あり、思潮及彙報欄特に力めたりと云ふべし、其の將來の發達を祈るべき好雜誌なり。

◎「毎日新聞」の評

布川靜淵氏深く社會問題に注意するあり、昨年より社會學會の組織に奔走中なりしが、今回其機關として社會雜誌を發行せり、其主旨に政黨政派に關係なし、宗教上の宗派に拘泥せず全く社會學的見地に其基礎を置くもの、權威全力を以て一歩も動かず、唯眞理の爲めに身命を犧牲とするものなり、上層社會には義務心を發揮せしめ、下層社會には適當の生活を得せしめんとす、と云へるもの以て其目的の存する處を知るべし、予等は這般の雜誌續出して社會問題の進步に資するを望ふ。

◎「國民新聞」の評

社會學、社會主義、社會問題等に關する諸般の事件を論義する爲めに發行せられたる雜誌にして、晩近社會問題研究の聲彌々旺ならんとするに際し、初めて此專門雜誌に接す、大旱に雲霓とは之をしもいふべき乎、時論あり、論說あり、雜纂あり、思潮あり、特に思潮彙報は蒐羅勉めたりといふべし。

◎「大坂朝日新聞」の評

今や我學界旺盛を極むるの日に當り、獨り斯學の研究は、未だ幼稚なること余輩の深く憾みとする所なり、是社會學其物の名に於て多く世人の誤認する處なり、社會學とし云へば、徒らに突飛なる社會革命を冀望する一種の謀叛人かの如く思惟せられ、或は我が國體と一致せざる亂臣賊子の議論なりと侮辱せらるゝに至る豈斯學の爲めに悲む可からずや、本雜誌は其發刊の要領に於て人間の歷史的發達、一般社會の進化開展の理法を究め、親しく實際社會の生活を調査し、社會改良の方針を示さんことを期すといふ、其志や先づ我が意を得たるなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎第二版成る◎

故若松賤子女史譯述

小公子

全一冊洋裝美本
册數三百五十頁
正價金三十五錢
郵税八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝと數十回、一代の流行を左右して一世少年の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化し、德に隣あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作者を愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し、讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ、何ぞ其の可憐高潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に巻を釋る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝこと切なり。即ち玆に其遺稿を收め、女史が一周忌日に會せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、鄉友松井昇氏は密畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元　東京日本橋區本町三丁目　博文館
大賣捌　東京麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

社告

鈴木弘恭大人講述
百人一首講義
正價金廿八錢
郵税四錢

横山雅男君著
婚姻論
正價十二錢
郵税四錢

巖本嘉志子
若松賤子英文集
正價廿七錢
郵税四錢

池袋清風大人著
淺瀨の波
第一篇二冊 正價二十八錢
第二篇二冊 同
郵税一篇每に金六錢

明治廿七年二月十四日内務省許可
明治三十年五月廿四日印刷
明治三十年五月廿五日發行(刷)

發行兼編輯者　東京市麴町區下六番町六番地　巖本善治
印刷者　東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　根岸高光
發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社
印刷所　東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場（電話本局十九番）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日逓信省認可

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY